2009 年 度 事 業 報 告 書

自　2009年4月　1日

至　2010年3月31日

107-0052　東京都港区赤坂1－2－2

財団法人　日　本　音　楽　財　団

Ⅰ　概　　要

財団法人日本音楽財団は、アマチュア音楽の振興を目的に 1974 年 3 月に設立され、設立20年を迎えた1994年からは、主に、西洋クラシック音楽を中心とする「音楽国際交流事業」と、国内外の音楽関連の団体が行なう事業に助成する「音楽文化の振興事業」を中心に事業を展開している。

音楽国際交流事業では、アントニオ・ストラディヴァリ等によって製作された世界最高峰の弦楽器を保有し、国籍を問わず一流の演奏家や若手有望演奏家に無償で貸与する「弦楽器名器の貸与事業」を行っている。この事業は、世界的文化遺産といわれる弦楽器名器を保全し、これらを次世代に継承するとともに、それらの活用によって、西洋クラシック音楽に対する日本の国際貢献と音楽を通した国際交流を目指している。

当財団の保有楽器は、巻末別表 4 のとおり、2010 年 3 月末現在 21 挺である。当財団は、これら文化遺産の管理者として大きな責務を負っていることを自覚し、保有楽器の保守・保全に関しては、最善の手段を講じるよう努めている。楽器の貸与方針並びに貸与者については、欧・米・アジアの有識者で構成される楽器貸与委員会で慎重に審議されている。

当財団では、貸与事業の広報を目的として、楽器貸与者による演奏会を国内外で開催しているが、本年度は海外演奏会事業としてオーストリア・グラーツ、イタリア・フィレンツェの 2 都市においてストラディヴァリウス・コンサートを開催した。もう一つの大きな柱である「音楽文化の振興事業」の助成金の交付は、外部有識者で構成される事業運営委員会の審議を経て、音楽諸団体が実施する各事業に幅広い支援を行った。音楽の普及と振興を図るためには、それぞれの地域に根ざした音楽団体への支援を広範囲に増やしていくことが重要であると認識している。

また、2007 年度から新たな柱として「地方における演奏会開催事業」を実施している。この事業は、地方都市において、財団保有楽器と楽器貸与者による演奏会を開催し、地方のクラシック音楽愛好家に世界的文化遺産である弦楽器名器による演奏に触れる機会を提供するとともに、当財団の楽器貸与事業を通じた国際貢献に対する理解の促進を目的としている。3 年目となる本年度は金沢でチャリティコンサートを開催した。

上記のような当財団の事業の運営・実施にあたっては、監督官庁の指導を仰ぐとともに、貴重な競艇交付金による日本財団の助成金を受けている。当財団としては、国内外における音楽文化の発展に寄与するため、適切な運営のもと、業務体制の充実と事業の一層の効率的実施に向けて、今後とも努力する所存である。

Ⅱ　総　務

1. 役員の異動

2009 年 6 月 9 日開催の第 73 回評議員会において第 19 期理事、監事の選任を行った。第 18 期理事 13 名と福井俊彦氏と斉藤邦彦氏の計15 名、第 18 期監事 2 名が選任された。2009 年 6 月 9 日開催の第 85 回理事会において評議員の追加選任が行われ、相川直樹氏と荒蒔康一郎氏の 2 名が追加選任された。

2009 年 5 月 17 日に鹿内（頼近）美津子理事が逝去された。

年度末現在の理事・監事の名簿は巻末別表 1、評議員の名簿は巻末別表 2 のとおりである。

2. 理　事　会

本年度は、理事会を下記のとおり 2 回開催した。

第 85 回理事会

開催日　2009 年 6 月 9 日（火）　13:30～15:00

場　所　アークヒルズクラブ

東京都港区赤坂 1-12-32 アーク森ビルイーストウィング 37 階

議決事項

第 1 号議案　2008 年度事業報告について

第 2 号議案　2008 年度収支決算について

第 3 号議案　評議員の追加選任について

第 4 号議案　第 19 期会長、副会長、理事長、専務理事、常務理事の互選について

第 5 号議案　非常勤役員の退職慰労金の支給について

追加議案　ストラディヴァリウス 1721 年製ヴァイオリン「レディ・ブラント」の取扱いについて

第 86 回理事会

開催日　2010 年 3 月 17 日（水）　13:30～15:00

場　所　アークヒルズクラブ

東京都港区赤坂 1-12-32 アーク森ビルイーストウィング 37 階

議決事項

第 1 号議案　2010 年度事業計画について

第 2 号議案　2010 年度収支予算について

3. 評議員会

本年度は、評議員会を下記のとおり 2 回開催した。

第 73 回評議員会

開催日　2009 年 6 月 9 日（火）　11:00～12:10

場　所　アークヒルズクラブ

東京都港区赤坂 1-12-32 アーク森ビルイーストウィング 37 階

議決事項

第 1 号議案　2008 年度事業報告について

第 2 号議案　2008 年度収支決算について

第 3 号議案　第 19 期理事・監事の選任について

第 74 回評議員会

開催日　2010 年 3 月 17 日（水）　11:00～11:55

場　所　アークヒルズクラブ

東京都港区赤坂 1-12-32 アーク森ビルイーストウィング 37 階

議決事項

第 1 号議案　2010 年度事業計画について

第 2 号議案　2010 年度収支予算について

4. 登 記 事 項

法務局に対し行った登記事項は以下のとおりである。

2009 年 7 月 8 日　2009 年 3 月 31 日現在における資産総額（正味財産）（11,208,869,238 円）の登記

2009 年 7 月 8 日　理事変更登記（2 名追加、2 名削除）

5. 主務大臣（文部科学大臣）への届出等

文部科学大臣に対し提出した届出事項は以下のとおりである。

2009 年 6 月 22 日　2008 年度事業報告書及び決算報告書

2009 年 7 月 24 日　登記事項変更（理事 13 名再任、理事 2 名追加、2 名削除）

2009 年 7 月 24 日　監事の届出（2 名再任）

2010 年 3 月 26 日　2010 年度事業計画及び収支予算書届

6. 主務官庁の検査

2009 年 4 月 27 日、文部科学省（文化庁）による当財団の業務及び財務等の検査があった。特に大きな指摘事項はなかった。

7. 主管税務署の検査

麻布税務署による当財団の立入検査は実施されなかった。

8. 外部監査の実施

永和監査法人に監査を委託し、本年度は期中監査を 2010 年 3 月、期末監査を 2010 年 5 月に実施した。

9. 事　務　局

事務所を東京都港区赤坂 1-2-2 日本財団ビル 5 階に置き、業務を遂行した。

年度末現在の事務局役職員数は常勤役員 2 名、職員 6 名、計 8 名である。

Ⅲ　事　　業

1.　音楽国際交流事業

弦楽器名器の貸与事業及びその広報を目的とした演奏会を中心に事業を実施した。

(1)　弦楽器名器の購入

本年度は、弦楽器の市場調査を実施し、楽器の購入は行わなかった。

(2)　弦楽器名器の保守管理

当財団は、保有している弦楽器名器を永く次世代へ引き継ぐため、楽器の修理及び調整内容等については慎重に検討し、名器の取り扱いに馴れている世界屈指の楽器商を指定し、最良の保全方法を処方している。長期貸与に供している楽器については、各貸与者に定期的（年 4 回）に指定楽器商による楽器の状態チェックを義務付けるとともに、楽器商からは当財団に対して報告書（コンディションレポート）を提出してもらっている。なお、年に一度は同じ目で楽器を見る必要があるという観点から、年 4 回の定期的チェックの内 1 回はロンドン在住の Andrew Hill 氏（当財団の楽器アドバイザー）のコンディション・チェックを受けるように指示している。

貸与中の楽器のメンテナンスや修理費は当財団が負担している。これは世界的文化遺産といわれる弦楽器名器に関して、どこで誰がどのような修理をしたかという記録を「管理者」として残しておく責任があるからである。

なお、財団保有の楽器は、製作後約 300 年経過しており、その間、ほとんど大規模な修理が行われていないため、経年による大規模な修理、補修が必要な楽器が出てきている。本年度は、1727 年製 Stradivarius Violin “Paganini”の経年による大規模修理を行った。今後も微調整には止まらない修理、メンテナンスが必要となる楽器が多くなるものと予想され、定期メンテナンス以外の楽器補修に対応する予算措置が必要となってきている。

当財団では楽器貸与事業開始当初より、各貸与者に対して戦争地域及び治安が不安定な国への当財団の楽器持参並びに船舶等での演奏を禁じている。また、国家的権力による楽器の没収の危険のある国、地域については、貸与者の演奏活動に応じて随時指示を出して対応している。ロシアについては入国時に必ず証明書に押印することを義務付けており、また、中国に関しては不安定要素が多いことから、公演受け入れ先が楽器持ち出しを保証しない限り、当財団の楽器の持込を禁じている。

楽器保険についても全額、当財団が支払っており、2 社の保険会社と契約し、よりよい条件と料率で付保できるよう努力している。

(3)　弦楽器名器の貸与

長期貸与者を審査する楽器貸与委員会を下記のとおり開催した。

1)　第 15 回楽器貸与委員会

日　　時	2009 年 6 月 27 日（土） 11:30～13:30
場　　所	アメリカ合衆国ニューヨーク市 Trump International Hotel & Tower 内会議室

楽器貸与委員　巻末別表 3 のとおり
財団保有楽器　巻末別表 4 のとおり
審議事項　現在の貸与状況及び貸与更新について
新規貸与申請について

審議結果

1 年間（2010 年 8 月 31 日まで）の貸与延長が承認された演奏家（13 名）

東京クァルテット
（Martin Beaver、池田菊衛、磯村和英、Clive Greensmith）
Lisa Batiashvili、諏訪内晶子、Arabella Miho Steinbacher、
Viviane Hagner、Baiba Skride、Yuki Manuela Janke、
石坂団十郎、Steven Isserlis
Sergey Khachatryan（楽器を Huggins から Lord Newlands へ変更）

1 年未満で貸与期限が延長された演奏家（2 名）

Erik Schumann（2009 年 11 月末）、竹澤恭子（2010 年 2 月末）

新規長期貸与者として下記 4 名が選定された。

Veronika Eberle、Manrico Padovani、Hyun-Su Shin、
Geza Hosszu-Legocky

また、1736 年製 Guarneri del Gesu Violin “Muntz”は引き続き短期貸与に供することで、委員会の同意を得た。

2) 楽器の貸与状況

2010 年 3 月末現在における保有楽器 21 挺の貸与状況の内訳は、長期貸与用 18 挺、短期貸与用 2 挺、その他 1 挺である。（巻末別表 5 参照）

短期貸与として、特定の演奏会及び CD 録音等の目的のため貸し出しを行なっているが、希望者が多いことから基本的に貸与期間は 6 ヶ月以内としている。

現有楽器の本年度における楽器毎の貸与状況は下記のとおりである。

（貸与推薦者等の敬称は省略）

① Stradivarius “Paganini Quartet”

貸　与　者　東京クァルテット（アメリカ・ニューヨーク在住）

1727 年製	ヴァイオリン	Martin Beaver
1680 年製	ヴァイオリン	池田菊衛
1731 年製	ヴィオラ	磯村和英
1736 年製	チェロ	Clive Greensmith

貸与推薦者　楽器貸与委員会全員

当該楽器を使用しての演奏　合計 75 回（聴衆約 49,800 名）

1995 年 9 月 27 日より貸与しているが、2010 年 8 月 31 日（貸与期間 14 年 11 ヶ月）まで契約を延長した。当財団の海外演奏会（後述）に出演した。

② 1700 年製 Stradivarius Violin “Dragonetti”

貸　与　者　Veronika Eberle（ドイツ・ドナウヴェルト在住）

貸与推薦者　Ana Chumachenco（ヴァイオリニスト）
Sir Simon Rattle（指揮者）
内田光子（ピアニスト）

当該楽器を使用しての演奏　合計 47 回（聴衆約 42,300 名）

2009 年 5 月 11 日より短期貸与していたが、第 15 回楽器貸与委員会において長期貸与者として承認され、2010 年 8 月 31 日（貸与期間 1 年 4 ヶ月）まで契約を延長した。

③ 1702 年製 Stradivarius Violin “Lord Newlands”

貸　与　者　　Sergey Khachatryan（ドイツ・エシュボルン在住）

当該楽器を使用しての演奏　　合計 27 回（聴衆約 43,000 名）

同氏は 2005 年ベルギー・エリザベート王妃国際音楽コンクール優勝者であり、2009 年 4 月まで 1708 年製 Stradivarius Violin “Huggins”を貸与（3 年 8 ヶ月）していた。引き続きの貸与の申請があり当該楽器を 2009 年 4 月 7 日より短期貸与していたが、第 15 回楽器貸与委員会において長期貸与者として承認され、2010 年 8 月 31 日（貸与期間 1 年 5 ヶ月、同氏への通算貸与期間 5 年 1 ヶ月）まで契約を延長した。

④ 1708 年製 Stradivarius Violin “Huggins”

貸　与　者　　Ray Chen（アメリカ・フィラデルフィア在住）

貸 与 期 間　　2009 年 6 月 2 日から次期コンクールまでの 3 年間

当該楽器を使用しての演奏　　合計 6 回（聴衆約 3,000 名）

当該楽器は 1997 年 5 月開催のベルギー・エリザベート王妃国際音楽コンクールよりヴァイオリン部門優勝者に、その副賞として次期コンクールまでの 3 年間貸与することにしている。（2005 年開催コンクールまでは 4 年間貸与）

同氏は、2009 年の当該コンクールの優勝者であり、次回当該コンクール開催までの 3 年間貸与する。

⑤ 1709 年製 Stradivarius Violin “Engleman”

貸　与　者　　Lisa Batiashvili（ドイツ・ミュンヘン在住）

貸与推薦者　　Osmo Vanska（指揮者）

　　Alfred Brendel（ピアニスト）

当該楽器を使用しての演奏　　合計 42 回（聴衆約 86,800 名）

2001 年 11 月 2 日より貸与しているが、2010 年 8 月 31 日（貸与期間 8 年 10 ヶ月）まで契約を延長した。当財団の海外演奏会（後述）に出演した。

⑥ 1710 年製 Stradivarius Violin “Camposelice”

1）貸　与　者　　竹澤恭子（アメリカ・ニューヨーク在住）

貸与推薦者　　Charles Dutoit（指揮者）

　　David Zinman（指揮者）

当該楽器を使用しての演奏　　合計 29 回（聴衆約 33,400 名）

2005 年 3 月 7 日より貸与しているが、2010 年 3 月 5 日（貸与期間 5 年）で貸与を終了した。当財団の国内演奏会及び海外演奏会（後述）に出演した。

2）貸　与　者　　Hyun-Su Shin （韓国・ソウル在住）

貸与推薦者　　Nam-Yun Kim（ヴァイオリニスト）

　　原田幸一郎（ヴァイオリニスト）

第 15 回楽器貸与委員会で長期貸与者として承認され、2010 年 3 月 7 日より貸与開始し、2011 年 8 月 31 日（貸与期間 1 年 6 ヶ月）まで契約した。

⑦ 1714 年製 Stradivarius Violin “Dolphin”

貸　与　者　　諏訪内晶子（フランス・パリ在住）

貸与推薦者　　Charles Dutoit（指揮者）
　　徳永二男（ヴァイオリニスト）
当該楽器を使用しての演奏　　合計 46 回（聴衆約 85,000 名）
2000 年 8 月 11 日より貸与しているが、2010 年 8 月 31 日（貸与期間 10 年）まで契約を延長した。

⑧ 1715 年製 Stradivarius Violin “Joachim”

1）貸　与　者　　庄司紗矢香（フランス・パリ在住）
貸与推薦者　　Zakhar Bron（ヴァイオリニスト、ケルン音楽院教授）
　　海野義雄（ヴァイオリニスト）
2001 年 4 月 14 日より貸与しているが、2009 年 6 月 8 日（貸与期間 8 年 2 ヶ月）で契約を終了した。

2）貸　与　者　　Martin Beaver（アメリカ・ニューヨーク在住）
期　　間　　2009 年 7 月 12 日～2009 年 8 月 2 日
同氏には 1727 年製 “Paganini” Violin を貸与中であるが、当該楽器が修理中の上記期間、代替楽器として “Joachim” を演奏活動のため貸与した。

3）貸　与　者　　Geza Hosszu-Legocky（スイス・ローザンヌ在住）
貸与推薦者　　Charles Dutoit（指揮者）
　　Martha Argerich（ピアニスト）
当該楽器を使用しての演奏　　合計 7 回（聴衆約 4,500 名）
第 15 回楽器貸与委員会で長期貸与者として承認され、2009 年 11 月 5 日より貸与を開始し、2010 年 8 月 31 日（貸与期間 9 ヶ月）まで契約した。

⑨ 1716 年製 Stradivarius Violin “Booth”

貸　与　者　　Arabella Miho Steinbacher（ドイツ・ミュンヘン在住）
貸与推薦者　　Ana Chumachenco（ウィーン音楽大学教授）
　　Anne-Sophie Mutter（ヴァイオリニスト）
当該楽器を使用しての演奏　　合計 62 回（聴衆約 95,900 名）
2005 年 5 月 5 日より貸与しているが、2010 年 8 月 31 日（貸与期間 5 年 4 ヶ月）まで契約を延長した。なお、同氏には貸与委員の提案により 2006 年 9 月 4 日より 1736 年製 Stradivarius Violin “Muntz ”から当該楽器に楽器を変更して貸与している。

⑩ 1717 年製 Stradivarius Violin “Sasserno”

貸　与　者　　Viviane Hagner（ドイツ・ベルリン在住）
貸与推薦者　　Claudio Abbado（指揮者）
　　Pinchas Zukerman（ヴァイオリニスト、指揮者）
当該楽器を使用しての演奏　　合計 64 回（聴衆約 95,400 名）
1999 年 5 月 27 日より貸与しているが、2010 年 8 月 31 日（貸与期間 11 年 3 ヶ月）まで契約を延長した。

⑪ 1722 年製 Stradivarius Violin “Jupiter”

1）貸　与　者　　Erik Schumann（ドイツ・ケルン在住）
貸与推薦者　　Zakhar Bron（ケルン音楽院教授）
　　Christoph Eschenbach（指揮者）
当該楽器を使用しての演奏　　合計 16 回（聴衆約 19,400 名）
同氏には 2005 年 11 月 1 日より 1736 年製 Guarneri del Gesu Violin “Muntz ”

を貸与していたが、2006 年 12 月 29 日より当該楽器に変更して貸与している。2009 年 11 月 8 日（4 年）で貸与を終了した。当財団の国内演奏会及び海外演奏会（後述）に出演した。

2）貸　与　者　　Manrico Padovani（スイス・ティチーノ在住）
貸与推薦者　　Anne-Sophie Mutter（ヴァイオリニスト）
　　Aida Stucki Piraccini（ヴァイオリニスト）
当該楽器を使用しての演奏　　合計 4 回（聴衆約 3,000 名）

第 15 回楽器貸与委員会で長期貸与者として承認され、2009 年 11 月 8 日より貸与開始し、2010 年 8 月 31 日（貸与期間 9 ヶ月）まで契約した。

⑫ 1725 年製 Stradivarius Violin “Wilhelmj”
貸　与　者　　Baiba Skride（ドイツ・ハンブルク在住）
当該楽器を使用しての演奏　　合計 89 回（聴衆約 94,300 名）

同氏は 2001 年ベルギー・エリザベート王妃国際音楽コンクール優勝者であり、2005 年 2 月まで 1708 年製 Stradivarius Violin “Huggins”を貸与（3 年 9 ヶ月）していた。引き続きの貸与の申請があり当該楽器を 2005 年 2 月 22 日より短期貸与したが、その後の楽器貸与委員会において長期貸与者として承認され、今回、2010 年 8 月 31 日（貸与期間 5 年 6 ヶ月、同氏への通算貸与期間 9 年 3 ヶ月）まで契約を延長した。当財団の海外演奏会（後述）に出演した。

⑬ 1736 年製 Stradivarius Violin “Muntz ”
貸　与　者　　Yuki Manuela Janke（ドイツ・ベルリン在住）
貸与推薦者　　外山雄三（指揮者、作曲家）
　　Julia Fischer（ヴァイオリニスト、フランクフルト音楽大学教授）
当該楽器を使用しての演奏　　合計 37 回（聴衆約 23,200 名）

2007 年 11 月 3 日より貸与しているが、2010 年 8 月 31 日（貸与期間 2 年 10 ヶ月）まで契約を延長した。当財団の海外演奏会（後述）に出演した。

⑭ 1696 年製 Stradivarius Cello “Lord Aylesford”
貸　与　者　　石坂団十郎（ドイツ・ベルリン在住）
貸与推薦者　　Daniel Barenboim（ピアニスト、指揮者）
　　Krzysztof Penderecki（作曲家、指揮者）
当該楽器を使用しての演奏　　合計 68 回（聴衆約 43,000 名）

2004 年 1 月 29 日より貸与しているが、2010 年 8 月 31 日（貸与期間 6 年 7 ヶ月）まで契約を延長した。当財団の国内演奏会及び海外演奏会（後述）に出演した。

⑮ 1730 年製 Stradivarius Cello “Feuermann”
貸　与　者　　Steven Isserlis（イギリス・ロンドン在住）
貸与推薦者　　Jasper Parrott（音楽家）
当該楽器を使用しての演奏回数　　合計 69 回（聴衆約 60,400 名）

1998 年 1 月 16 日より貸与しているが、2010 年 8 月 31 日（貸与期間 12 年 7 ヶ月）まで契約を延長した。

⑯ 1736 年製 Guarneri del Gesu Violin “Muntz ”

当該楽器は演奏会や録音のための短期貸与用に供している。本年度は下記の演奏家に短期貸与した。

1）千葉純子

貸与推薦者　　原田幸一郎（ヴァイオリニスト）
　　徳永二男（ヴァイオリニスト）
貸 与 期 間　　2009 年 1 月 30 日～8 月 5 日
　　CD レコーディング及び演奏会のため

2）南　紫音
貸与推薦者　　原田幸一郎（ヴァイオリニスト）
　　広上淳一郎（指揮者）
貸 与 期 間　　2009 年 9 月 8 日～2010 年 1 月 8 日
　　CD レコーディング及び演奏会のため

3）松本紘佳
貸与推薦者　　原田幸一郎（ヴァイオリニスト）
　　Oleh Krysa（ヴァイオリニスト）
貸 与 期 間　　2010 年 1 月 28 日～2010 年 4 月 30 日
　　演奏会及びコンクール出場のため

⑰ 1740 年製 Guarneri del Gesu Violin “Ysaye”
演奏委託者　　Pinchas Zukerman（カナダ・オタワ在住）
2003 年 5 月 27 日より演奏委託しているが、2009 年 6 月 30 日（貸与期間 6 年 1 ヶ月）で演奏委託が終了した。その後、長期貸与後のメンテナンスのため楽器商に預けた。

⑱ 1721 年製 Stradivarius Violin “Lady Blunt”
この楽器は、ほとんど未使用で、保存状態が非常に優れていることから、将来の楽器製作者の見本となる楽器として、保存・管理していくことが第 85 回理事会で承認された。（2009 年 6 月 9 日開催）

(4)　国内演奏会の開催
楽器貸与者の来日に合わせ演奏会を開催し、日本国内における当財団の楽器貸与事業の広報に努めるとともに、ストラディヴァリウス等の名器の音色に触れる機会を提供している。本年は下記 1）～3）の 3 公演を東京で開催した。また、下記 4）は、モーツァルトが子どもの時に使用したヴァイオリンを披露する記者会見と演奏会開催に協力した。各演奏会の実録 CD を製作し、当財団の応報活動に活用した。

1）「エリック・シューマン　ヴァイオリン・リサイタル」
日　時　　2009 年 8 月 27 日（木）
　　18:00　レセプション　　19:00～20:00　コンサート
会　場　　浜離宮朝日ホール（東京）
演奏者　　Erik Schumann（Stradivarius 1722 年製 Violin “Jupiter”使用）
　　占部由美子（ピアノ、ミュンヘン音楽大学教授）
来場者数　約 500 名
演奏曲目　ロベルト・シューマン／クライスラー編曲：幻想曲　ハ長調　作品 131
　　ヨハネス・ブラームス：ヴァイオリンソナタ　第 3 番　ニ短調　作品 108
　　ヘンリク・ヴィェニャフスキ：華麗なるポロネーズ（大二重奏曲）
　　第 1 番　ニ長調　作品 4

2）「竹澤恭子　ヴァイオリン・リサイタル」

日　時　　2009 年 12 月 8 日（火）
　　18:00　レセプション　　19:00～20:00　コンサート
会　場　　トッパンホール（東京）
演奏者　　竹澤恭子（Stradivarius 1710 年製　Violin “Camposelice”使用）
　　Itamar Golan（ピアノ）
来場者数　約 400 名
演奏曲目　ヨハネス・ブラームス:
　　「F.A.E.ソナタ」より　スケルツォ　ハ短調
　　ヴァイオリン・ソナタ　第 2 番　イ長調　作品 100
　　ヴァイオリン・ソナタ　第 3 番　ニ短調　作品 108
　　ヨーゼフ・ヨアヒム編曲による　ハンガリー舞曲　第 1 番　ト短調

3）「石坂団十郎＆マルクス・シルマー　デュオ・コンサート」

日　時　　2010 年 2 月 19 日（火）
　　18:00　レセプション　　19:00～20:10　コンサート
会　場　　トッパンホール（東京）
演奏者　　石坂団十郎（Stradivarius 1696 年製　Cell “Lord Aylesford”使用）
　　Markus Schirmer（ピアノ）
来場者数　約 400 名
演奏曲目　ルートヴィヒ・ヴァン・ベートーヴェン:
　　チェロソナタ　イ長調　作品 69　第 1 楽章　初稿版
　　チェロソナタ　ハ長調　作品 102　第 1 曲
　　「恋人か女房か」による 12 の変奏曲　ヘ長調　作品 66
　　（モーツァルト「魔笛」より）
　　チェロソナタ　ト短調　作品 5　第 2 曲

4）モーツァルト神童ヴァイオリンを聴く会及び記者会見

上記 3 公演（当財団保有楽器と貸与者による演奏会)の他に国内演奏会として、ザルツブルク・国際モーツァルテウム財団が所有するモーツァルトが子どもの時使用していたヴァイオリンの披露演奏会を下記のとおり実施協力した。モーツァルトが子どもの時使用していたヴァイオリンがオーストリア国外に持ち出され披露演奏されるのは初めてであるとのことであった。東北新社（クラシカ・ジャパン）が TV 放送のため収録したものを利用して、CD とともに DVD を作成し音楽関係団体等に配布した。

主　催　　ザルツブルク国際モーツァルテウム財団
　　国立新美術館
　　読売新聞東京本社
　　TBS
特別協賛　第一生命保険（相）
協　力　　日本モーツァルト研究所
　　日本音楽財団
　　（株）ビデオプロモーション

後　援　　オーストリア大使館
日　時　　2009 年 12 月 11 日（金）
　　15:00～16:00　記者会見　　17:30～18:30　コンサート
会　場　　国立新美術館（東京）
演奏者　　松本紘佳（モーツァルトの子供時代のヴァイオリンを使用）
　　小林道夫（チェンバロ）
来場者数　約 400 名
演奏曲目　ヴォルフガング・アマデウス・モーツァルト:
　　チェンバロとヴァイオリンのためのソナタ　ハ長調 K6
　　（パリ・ソナタ　第 1 番）
　　チェンバロとヴァイオリンのためのソナタ　ト長調 K11
　　（ロンドン・ソナタ　第 2 番）
　　チェンバロとヴァイオリンのためのソナタ　ニ長調 K29
　　（ハーグ・ソナタ　第 4 番）

なお、国立新美術館での演奏会終了後、19 時よりオーストリア大使主催のレセプションがオーストリア大使公邸にて（約 100 名）行なわれた。

5）親子でコンサート

昨年に引き続き、「親子でコンサート」として下記 2 公演に 32 組 64 名の親子を招待した。親子で招待することにより家族間に共通の話題を提供するとともに、将来のクラシック音楽ファンの育成、底辺の拡大に努めた。

① 2009 年 8 月 27 日（木）19:00～　東京・浜離宮朝日ホール
「エリック・シューマン　ヴァイオリン・リサイタル」（親子 15 組 30 名）

② 2010 年 2 月 19 日（木）19:00～　東京・トッパンホール
「石坂団十郎＆マルクス・シルマー　デュオ・コンサート」（親子 17 組 34 名）

(5)　海外演奏会の開催

本年度はオーストリア・グラーツ、イタリア・フィレンツェの 2 都市で開催した。

ツアーの名称　Encounter with Stradivari 2009

① オーストリア・グラーツ（Graz, Austria）

共　催　　日本音楽財団、AVL Cultural Foundation GmbH
協　力　　日本財団、Salzburg Easter Festival
場　所　　Helmut-List-Halle
日　時　　2009 年 11 月 5 日（木）
　　レセプション 18:00～19:00
　　講演会 19:00～19:20
　　演奏会 20:00～21:30
　　チャリティディナー　21:30～23:00
目　的　　AVL Cultural Foundation GmbH が実施する、若手作曲家と演奏家を支援するためのチャリティ・コンサート。
聴　衆　　約 400 名（一般、招待客合計）

演奏曲目、演奏者、使用楽器（2 都市共通）

ヘンデル-ハルヴォルセン：パッサカリア

Baiba Skride（Stradivarius 1725 年製 Violin “Wilhelmj”）

石坂団十郎（Stradivarius 1696 年製 Cello “Lord Aylesford”）

ヘンリク・ヴィエニャフスキ：エチュード・カプリース 作品 18 第 1-4 番

Lisa Batiashvili（Stradivarius 1709 年製 Violin “Engleman”）

Erik Schumann（Stradivarius 1722 年製 Violin “Jupiter”）

アントニン・ドヴォルザーク：三重奏曲 ハ長調 作品 74

Lisa Batiashvili（Stradivarius 1709 年製 Violin “Engleman”）

Yuki Manuela Janke（Stradivarius 1736 年製 Violin “Muntz”）

磯村和英（Stradivarius 1696 年製 Viola “Archinto”）

パブロ・デ・サラサーテ：ナバラ 作品 33

竹澤恭子（Stradivarius 1710 年製 Violin “Camposelice”）

Erik Schumann（Stradivarius 1722 年製 Violin “Jupiter”）

占部由美子（ピアノ）

サミュエル・バーバー：弦楽のためのアダージョ 作品 11

東京クァルテット（Stradivarius “Paganini Quartet”）

フェリックス・メンデルスゾーン：弦楽八重奏曲 変ホ長調 作品 20

Martin Beaver（Stradivarius 1727 年製 Violin “Paganini Quartet”）

Baiba Skride（Stradivarius 1725 年製 Violin “Wilhelmj”）

竹澤恭子（Stradivarius 1710 年製 Violin “Camposelice”）

Yuki Manuela Janke（Stradivarius 1736 年製 Violin “Muntz”）

磯村和英（Stradivarius 1731 年製 Viola “Paganini Quartet”）

池田菊衛（Stradivarius 1696 年製 Viola “Archinto”）

Clive Greensmith（Stradivarius 1736 年製 Cello “Paganini Quartet”）

石坂団十郎（Stradivarius 1696 年製 Cello “Lord Aylesford”）

②フィレンツェ、イタリア（Florence, Italy）

共　催　　日本音楽財団、Teatro del Maggio Musicale Fiorentino

協　力　　日本財団、Salzburg Easter Festival、Accademia Italiana degli Archi

場　所　　Galleria dell‘Accademia

日　時　　2009 年 11 月 7 日（土）

演奏会 21：00～22：30

チャリティディナー 22：45～24：00

目　的　　Teatro del Maggio Musicale Fiorentino が実施する、学校を対象とした音楽教育振興のためのチャリティ・コンサート。

聴　衆　　約 250 名（一般、招待客合計）

演奏曲目、演奏者、使用楽器

グラーツの演奏会と同様

当財団保有の楽器及びその貸与者によるコンサートを上記のとおり 2 都市で開催した。日本財団が過去 10 年にわたり支援した Salzburg Easter Festival の仲介により、グラーツは AVL Cultural Foundation GmbH と、フィレンツェは Teatro del Maggio

Musicale Fiorentinoと共催した。AVL Cultural Foundationは、自主企画を通してクラシック音楽を志す若い作曲家、演奏家の活動を支援している。会場である Helmut-List-Halle は、同財団により運営されており、クラシック音楽に適した音響設備を備えている。フィレンツェの Teatro del Maggio Musicale Fiorentino はズービン・メータ監督の下、演奏家、俳優を育成する機関を擁する団体であり、彼らによる舞台やプロオーケストラのドレスリハーサルに地元の学生を招待するなどの活動により、音楽教育発展に努めている。コンサートは Galleria dell'Accademia のダビデ像前に会場を特設して行われた。チケットは 2 公演とも一般販売され、その収益は、チャリティディナーの収益と合わせて両団体が行う事業に寄付された。

本年も、The Royal Academy of Music, London より Stradivarius 1696 年製 Viola "Archinto" を借用し、ドヴォルザークの三重奏曲とメンデルスゾーンの八重奏曲に使用した。演奏家は貸与者 10 名とピアニスト 1 名の計 11 名が出演し、楽器は、Viola "Archinto" を含め 11 挺のストラディヴァリウスが演奏された。

コンサートでは、当財団の保有楽器や事業を掲載したブローシャーを聴衆に配布し、また、チャリティディナーでは当財団が過去に行った演奏会の実録 CD 及び DVD を配布し、当財団の事業の広報に努めた。

グラーツ公演には、田中映男在オーストリア特命全権大使、ザルツブルク国際モーツァルテウム財団（International Morzarteum Foundation Salzburg）総裁 Dr. Johannes Honsig-Erlenburg、ザルツブルク・モーツァルテウム音楽大学（Mozarteum University in Salzburg）教授 Igor Ozim 等にご出席いただいた。フィレンツェ公演には、Lamberto Dini イタリア前首相、安藤裕康在イタリア特命全権大使等にご出席いただいた。また、The Royal Academy of Music, London から楽器管理責任者の David Rattray と、芸術部門ディレクターの Nicola Mutton が出席し、Viola "Archinto" の調整及び来年 2010 年のコンサート企画について話し合いを持った。

コンサートは好評を博し、各国の新聞やテレビ等のメディアで広く報道された。グラーツ公演はオーストリア最大の放送局である ORF Landesstudio Steiermark によって収録され、同年 12 月 27 日に Radio Steiermark 20.04 で放送された。当財団の広報用として、CD 及び DVD を制作した。

ツアー中には多くの貸与者が参加することから、例年通りツアー中に当財団の楽器アドヴァイザーである W.E. Hill の A. Hill 氏による楽器インスペクションを行った。これは、同じ目で年 1 回楽器の状態確認すること、必要であれば管理上の注意を促すことを目的としている。

共催者の協力等により経費節約に努めた。当財団は主に、演奏家の旅費、滞在費、写真撮影、録音と録画の費用を負担し、共催者はホール使用費、付帯設備費（人件費含む）、レセプションやチャリティディナーなどの会合費を負担した。

(6) その他

2004 年度から衛星デジタルラジオ局「MUSICBIRD THE CLASSIC （7ch）」並びに衛星デジタルテレビ「クラシカ・ジャパン」の協力を得て、日本音楽財団が演奏家にストラディヴァリウス等の弦楽器名器を無償で貸与する活動をシリーズで紹介している。過去の開催も含め、当財団主催の国内外の演奏会で作成した実録 CD を演奏家の許諾を得て放送し、日本音楽財団の諸活動を周知するとともに、ストラディヴァリウスの華麗な響きを楽しんでいただいている。特に普段なかなかストラディヴァリ

ウスの演奏に触れる機会のない地方のクラシックファンには、大変喜ばれているとの報告を受けている。

本年度の放送内容は下記のとおりである。

① 衛星デジタルラジオ MUSIC BIRD THE CLASSIC（7ch）

放送年月日

2009 年 6 月 21 日、再放送 8 月 30 日

「樫本大進ウィンター・リサイタル」（紀尾井ホール、2005 年 2 月 16 日収録）

「A Stradivari Musical Extravaganza」よりバッハ“シャコンヌ”

（ロンドン・ランカスターハウス、 2001 年 5 月 23 日収録）

2009 年 6 月 28 日、再放送 7 月 4 日

「子供の村福岡 建設支援 竹澤恭子＆南紫音チャリティコンサート」

（福岡シンンフォニーホール、2008 年 3 月 25 日収録）

「子供の村福岡 建設支援 庄司紗矢香＆小菅優チャリティコンサート」

（福岡シンンフォニーホール、2009 年 1 月 19 日収録）

「アナ・チュマチェンコ ヴァイオリン・リサイタル」

（浜離宮朝日ホール、2009 年 2 月 19 日収録）

2010 年 1 月 2 日、再放送 1 月 11 日

「エリック・シューマン ヴァイオリン・リサイタル」

（浜離宮朝日ホール、2009 年 8 月 27 日収録）

2010 年 3 月 22 日、3 月 23 日

春のミュージックバード祭り 2010

3 月 22 日 第 1 夜：ストラディヴァリウス・コンサート Vol.1

「庄司紗矢香＆佐藤俊介デュオ・ヴァイオリン・コンサート」

（東京オペラシティコンサートホール、2007 年 9 月 10 日収録）

「Encounter with Stradivari 2009」

（グラーツ・ヘルム・リスト・ホール、2009 年 11 月 5 日収録）

3 月 23 日 第 2 夜：ストラディヴァリウス・コンサート Vol.2

「アラベラ・シュタインバッハ・リサイタル」

（浜離宮朝日ホール、2006 年 5 月 29 日収録）

「Encounter with Stradivari 2008」（サントリーホール、2008 年 9 月 9 日収録）

② 衛星デジタルテレビ CLASSICA JAPAN

放送回数：計 18 日

「Encounter with Stradivari 2008」（サントリーホール、2008 年 9 月 9 日収録）

2009 年 12 月 20 日 20:00、12 月 22 日 02:00、12 月 23 日 18:00、
12 月 24 日 10:00、12 月 26 日 06:00、12 月 29 日 23:55

クラシカ・ラウンジ＃102～よみがえるモーツァルト神童ヴァイオリン

（国立新美術館、2009 年 12 月 11 日収録）

2010 年 3 月 28 日 19:30、3 月 29 日 02:30、09:30、16:30、
3 月 30 日 00：30、13:30、20:30、3 月 31 日 04:30、09:30、16:30、24:30
4 月 1 日 00：30

2. 音楽文化の振興事業「音楽助成金の交付」

(1) 事業の実施内容

本事業は、音楽諸団体の活動を支援して、音楽水準の向上を図るとともに、音楽の振興と普及を図ることを目的としている。助成金交付先は事業運営委員会において慎重に選定を行っている。選定にあたっては、A)マスタークラス、B)指導者の育成、C)子供を対象としたアウトリーチ、D)リハビリ、E)パートナーの育成、の 5 本の柱を中心に審査することとし、個別の案件の審議、決定を行なった。

本年度の事業運営委員会(委員名簿は巻末別表 3)の開催状況は以下のとおり。

第 1 回事業運営委員会　2009 年 4 月 14 日(火)

第 2 回事業運営委員会　2009 年 12 月 17 日(木)（書面）

本年度は事業運営委員会で審議した結果、A)マスタークラスが 6 事業、B)指導者の育成が 4 事業、C)子供を対象としたアウトリーチが 4 事業、D)リハビリが 2 事業、E)パートナー(事業共催者)の育成は該当なし、その他が 5 事業、合計 21 事業、助成総額 24,500,000 円を決定し、24,395,000 円交付した。　（巻末別表 6 参照）

各団体実施事業内容は次のとおりである。　（出演者及び講師等の敬称は省略）

A)マスタークラスに分類される事業(6 事業)

（内容）才能ある音楽家を見出し、育成していく事業で、一流の演奏技術を学ぶだけでなく、若い音楽家に先輩たちの音楽家としての心構えや音楽に対する考え方に接する場を提供し、今後の活動に大きな自信を与える事業。

（成果）マスタークラスに関わる支援要請は、海外からの申請も含め増加傾向にあり、クラシック音楽界の未来を担う若手演奏家の育成が、世界全域で重要視されていることが読み取れる。参加した受講生は、国内外の一流の講師陣から演奏技術だけでなく、音楽家としての心構えや楽曲の解釈を学ぶなど演奏活動の総合的なレベルアップを果たしている。

① プロジェクト Q・第 7 章～若いクァルテット、メンデルゾーンに挑戦する

期　　日　公開マスタークラス 2009 年 11 月～12 月(4 回)
　　トライアル・コンサート 2010 年 1 月 9 日～11 日(3 公演)
　　修了コンサート 2010 年 2 月 11 日(2 公演)

団　　体　プロジェクト Q 実行委員会

会　　場　ドイツ文化センター(公開マスタークラス)
　　紀尾井小ホール(トライアル・コンサート及び修了コンサート)

規　　模　受講クァルテット 6 組 24 名
　　講師 14 名(原田幸一郎、原田禎夫、ジュリアード弦楽四重奏団、他)
　　聴衆　マスタークラス 360 名(4 回)　トライアル・コンサート 256 名(3 回)
　　修了コンサート 297(2 回)

助成額　2,000,000 円　（事業費総額:3,540,000 円）

6 組の若手弦楽四重奏団を対象に、1)原田幸一郎、原田禎夫の他、国際的なプロの弦楽四重奏者を講師に迎えた公開マスタークラス、2)本番前のトラ

イアル・コンサート、3）修了コンサートを行った。若手弦楽四重奏団の育成を図るとともに、すべての過程を一般聴衆に公開し、弦楽四重奏の素晴らしさを、演奏者と聴衆とが共に体験し共有していくことを意図している。今回は、例年より 1 組出演グループが増え、初めて愛知県立芸術大学からのグループが参加した。近年ではプロジェクト Q の活動に賛同し、大阪ではザ・フェニックスホール、名古屋では宗次ホールが、若いクァルテットの育成事業に取り組み始めている。若いクァルテットの活動の場が、プロジェクト Q から全国的に広がってきたことは、大いに評価できる。

② ミュージック・マスターズ・コース・ジャパン（MMCJ）2009

期　日　2009 年 6 月 9 日～6 月 23 日
団　体　ミュージック・マスターズ・コース・ジャパン実行委員会
会　場　セミナー：かずさアカデミアホール（木更津）
教授陣による室内楽演奏会：サントリーホール小ホール
受講生による室内楽演奏会：かずさアカデミアホール、
横浜みなとみらいホール
MMCJ オーケストラ演奏会：紀尾井ホール、横浜みなとみらいホール
規　模　受講生 23 名（8 カ国より、日本人 13 名、外国人 10 名）
講師 13 名（アラン・ギルバート、大友直人、マイケル・ギルバート、他）
助成額　1,000,000 円　（事業費総額：32,490,000 円）

日本を発信源とするオーケストラ・プレーヤーの育成を目指し、2001 年に第 1 回を開催。第 9 回を迎えた今年は、今後のグローバル化に対応すべく名称をミュージック・マスターズ・コース in かずさより、「ミュージック・マスターズ・コース・ジャパン」に改称した。オーディションにより選ばれた 8 カ国 23 名の受講生に対し、世界のメジャーオーケストラの首席奏者からなる講師陣より室内楽及びオーケストラの指導を行った。レッスンは 14 日間早朝から深夜まで行われ、合宿形式で共同生活することにより、技術の向上はもとより、文化・言葉の違いを超えたコミュニケーション能力の育成が図られた。レッスンの成果は、随時行われた公開演奏会の場で披露された。地域との連携としては、木更津教育委員会の協力により地元の小・中学生に音楽鑑賞の機会を提供した。また、横浜では横浜銀行のロビーにて公開コンサートを開催し、子供たちや市民と触れ合う機会を設定した。

③ 第 6 回クールシュヴェール国際音楽アカデミー in かさま

期　日　2010 年 3 月 21 日～30 日
団　体　クールシュヴェール国際音楽アカデミー in かさま 実行委員会
会　場　レッスン会場　：茨城県教育研修センター
コンサート会場：笠間公民館大ホール他
規　模　受講生 72 名（ヴァイオリン 35 名、ピアノ 37 名）
講師 8 名（ザハール・ブロン、辰巳明子他）
公開レッスン聴講者 1,600 人　講師コンサート 3 回 聴衆 920 人
受講生コンサート 聴衆 290 人　街角コンサート 7 回 聴衆 730 人
助成額　1,000,000 円　（事業費総額：24,800,000 円）

ヴァイオリン、ピアノのマスタークラスを開催し、個人レッスン中心の密度の濃い指導を行った。併せて一部のレッスンを一般に公開するとともに、講師によるコンサート、受講生によるコンサートを低廉な価格により開催し、多くの住民に質の高い音楽に触れる機会を提供した。また、地元の小中学生を対象とした日本人講師によるセミレッスンの開催（無料）、音楽愛好家による様々なジャンルの街角コンサートを期間中連日開催、音楽講演会の開催など、アカデミー、市民、行政が一体となり、地域の音楽振興、音楽による街づくりの実現を目指した。

④ 若手演奏家育成プログラム

期　日　2009 年 6 月 9 日～7 月 1 日
団　体　カナダ国立芸術センター　National Arts Centre
会　場　カナダ国立芸術センター（オンタリオ州オタワ）
規　模　受講生 88 名（14 カ国）　講師 22 名
助成額　10,000 カナダドル（895,000 円）　（事業費総額：374,000 カナダドル）

2009 年 6 月末まで当財団保有の楽器の演奏委託をしていたピンカス・ズッカーマンが総合監督を務める本プログラムは、今回 11 回目を迎えた。14 カ国から集まった 88 名の受講生は、オーディション参加者 296 名の中から選抜され、弦楽器、吹奏楽器、ピアノ、声楽、指揮、作曲のコースに分かれて一流の現役演奏家による指導を受ける貴重な機会を与えられた。期間中に一般に公開された受講生によるコンサート、受講生と同センター付きオーケストラとの共演は、オタワ市民に披露され大きな反響を呼んだ。また、受講生を対象にした心理学者、理学療法士による身体指導、進路にかかわる指導、質疑応答が行われ、演奏家が抱える身体、精神面での問題について話し合う良い機会となった。

⑤ アップビートとかち音楽祭 2010

期　日　2010 年 3 月 18 日～28 日
団　体　アップビート春季国際音楽セミナー実行委員会
会　場　中札内文化創造センター、清水町文化センター、池田町田園ホール
　　帯広市民文化ホール、幕別町百年記念ホール、中札内交流の杜、他
規　模　セミナー：受講生 40 名
　　講師：ジェラール・プーレ他 6 名（内、日本人講師 3 名）
　　コンサート（6 回）：出演者 18 名（講師 7 名、招聘演奏家 11 名）
　　聴衆 3000 名
助成額　1,000,000 円　（事業費総額：10,940,000 円）

セミナーは、ヴァイオリン、ピアノ、チェロ、クラリネット、室内楽のコースが準備され、世界の第一線で活躍する国内外の講師による密度の濃い指導が行なわれた。同時に、講師陣及び招聘演奏家による「シューマン・ショパン生誕 200 年記念室内楽連続演奏会」を十勝管内 5 会場（6 公演）で開催した。この演奏会は、シューマンとショパンの室内楽に焦点を当て、2 人の室内楽作品の全てを 6 公演で演奏するという試みである。（昨年は、ブラームス室内楽全曲演奏会（8 公演）を実施した。）また、開催地の中札内村の児童、小学生、

高校生他を対象に学校コンサート及び楽器体験ワークショップ、ピアノ講座を実施した。
本事業の実施により、日本人若手演奏家の育成が図られるとともに、十勝管内でのクラシック音楽の普及、浸透が促進された。

⑥ オーケストラ・アンサンブル金沢/井上道義指揮者講習会
期　　日　2009 年 8 月 28 日～31 日
団　　体　(財)石川県音楽文化振興事業団
会　　場　石川県立音楽堂コンサートホール、交流ホール
規　　模　講師 2 名(井上道義、広上淳一)
受講生 29 名、ピアニスト 2 名、
モデルオーケストラ(金沢大学フィルハーモニー管弦楽団 95 名)
助成額　1,500,000 円　(事業費総額:2,610,000 円)
本事業は、若い指揮者の発掘、育成に強い関心を持つ井上道義が自ら企画立案した第一回目のプロジェクトである。オーケストラの指揮者として活動するためには、読譜力、様々な楽器やその奏法、合理的な合奏法をはじめ音楽学の幅広い知識と能力が必要な上に、最終的には自らの意思を伝え、音楽的表現を作り上げていく能力が重要であることから、音楽学校で系統的に学ぶ技術はもとより、著名な指揮者のマスタークラスや公開レッスンの実践的訓練が重要とされている。講習会では、指揮者とは何たるかに始まり、作曲家や曲の解釈、指揮の技術的な指導などから、力を抜くところ、立ち姿、観客が見る後姿まで個々の受講者が持っている長所、短所を取り上げながら、濃密な講習が続けられた。本事業の実施により、受講者の指揮能力は著しく進化、向上し、次代を担う人材育成に大きく寄与した。

B)指導者の育成に分類される事業(4 事業)
(内容) 講習会・研修会の指導者・講師・リーダーを育成することにより、東京以外の地区でも参加者が安価で質の高い講習を受けることを可能とする事業。
(成果) 指導者の育成分野の講習会や研修会は、アマチュアの演奏活動の全体的な質を向上させる手助けとなっており、東京だけでなく地方での開催も盛んで、参加者が気軽に質の高い講習を受けることが可能となっている。内容も単なる演奏技術だけでなく、より深い音楽への考察を取り入れた講習などが加わり充実してきている。参加者は、各地のアマチュアオーケストラあるいは演奏グループの指導的立場にある奏者であり、研修で得た演奏のノウハウを地元に持ち帰ることで各地の演奏活動の活性化とレベルアップに寄与している。

① 高円宮殿下メモリアル 第 10 回記念日本マスターズオーケストラキャンプ
期　　日　2010 年 1 月 9 日～11 日
団　　体　(社)日本アマチュアオーケストラ連盟
会　　場　第一生命ホール
規　　模　講師 3 名(徳永二男、井野邉大輔、林 徹也)
参加者 98 名(一般コース 59 名、基礎コース 37 名、聴講 2 名)
助成額　1,000,000 円　(事業費総額:4,180,000 円)

一般コース、基礎コースに分かれ、体の使い方、弓の持ち方など基本的な内容から各曲の内面的なイメージの解釈に至るまで、楽しみながらも厳しい指導が行われた。最終日の公開レクチャーコンサートでは、今までの最大となる約 300 名の聴衆が集まった。基礎コースのコンサートでは、林講師が曲の転換場面で演奏を止めて聴衆にその変化の様子を解説する場面もあり、その具体的な説明は好評であった。一般コースでは、講師らのスピーチでの楽しい雰囲気も、一旦演奏が始まると参加者全員が集中した。参加者の大半が地方オーケストラのコンサートマスターや首席奏者であり、リピーターも多い。彼らの経験と技術練磨が地方オーケストラに確実に伝えられていくことが期待できる。1 月 10 日には高円宮妃殿下がご来臨された。

② 吹奏楽指導者指揮法講習会

期　日　2009 年 11 月～2010 年 2 月
団　体　（社）日本吹奏楽指導者協会
会　場　北海道、東北（仙台）、関東甲信越（宇都宮）、東海（名古屋）、
関西（大阪府門真）、九州（熊本）
規　模　講師：延べ 9 名　、受講者 132 名　、モデルバンド約 250 名
助成額　1,000,000 円　（事業費総額：1,500,000 円）

第一線で活躍する指揮者を講師として地方に派遣し、独学の困難な指揮法の普及を目的とする。吹奏楽指導者として必要な指揮法について斉藤秀雄著の「指揮法教程」を主材とし、講義、実技、ディスカッションを行う。実技ではピアノ伴奏者またはモデルバンドを指揮し、音楽表現の伝え方、奏者とのコミュニケーションのとり方を体得した。個人指導では基礎の確認、欠点の修正がなされ、受講者にとって貴重な体験となった。

③ APA 河口湖音楽祭 2009

期　日　2009 年 10 月 16 日～19 日
団　体　NPO 法人日本アマチュア演奏家協会（APA）
会　場　山梨県富士河口湖町　サニーデ・リゾート
規　模　講師：6 名
（ヴァイオリン 2 名、ヴィオラ 1 名、チェロ 1 名、ピアノ 1 名、オーボエ 1 名）
参加者 85 名
助成額　1,000,000 円　（事業費総額：2,390,000 円）

アマチュア演奏家による日本最大の室内楽音楽祭を開催し、室内楽演奏の普及活動を行う。プロの演奏家による合奏指導、プロ演奏家との合奏、公開コンサートなどの研修により、室内楽演奏者を増やしアマチュアの室内楽公演活動の活性化を図った。例年、この音楽祭には多くの演奏グループから指導的立場にある奏者が参加しており、合宿で得た室内楽の演奏のノウハウを地元に持ち帰ることで各地の活動の活性化とレベルアップに寄与している。

④ 2009 JASTA ストリングセミナー

期　日　2009 年 7 月 31 日～8 月 3 日（八ヶ岳山麓会場）、8 月 11 日（東京会場）
団　体　日本弦楽指導者協会

会　場　小海リエックス・ホテル、高根ふれあい交流ホール（八ヶ岳山麓会場）、
自由学園明日館（東京会場）
規　模　八ヶ岳山麓会場
受講生 67 名　聴講生 21 名　講師 8 名　伴奏者 3 名、ｽﾀｯﾌ 39 名
東京会場
受講生　3 名　聴講生 78 名　講師 1 名　伴奏者 1 名、通訳 1 名
助成額　1,000,000 円　（事業費総額：9,510,000 円）

八ヶ岳山麓会場では、4 日間の合宿形式にて日本フィル　ソロ　コンサートマスターの木野雅之ら講師の指導の下、参加者全員が個人レッスン、室内楽、合奏、チェロアンサンブル、ワンポイントレッスンと様々な練習を行い、演奏技術の向上のみならず、一流の講師陣の豊かな経験、音楽性などを学ぶ事ができた。最終日には地元の方々を演奏会へ招待し練習の成果を披露した。また、東京会場では、録音による審査で選ばれた受講生 3 名が公開レッスンという形式で、元ウィーンフィル　コンサートマスター、現ニュルンベルク音楽大学教授のダニエル・ゲーテより熱意のこもった指導を受けた。彼の熱意のこもった 2 時間半に亙る指導は、受講生はもとより、聴講生にとっても貴重な経験となった。

C）子供を対象としたアウトリーチに分類される事業（4 事業）

（内容）演奏会を主体とした事業だが、単に聴くだけでなく体験する音楽、音楽家とのふれあい、親子の会話のきっかけ作り等、いろいろな工夫を付加して積極的にクラシックの裾野の拡大に努める事業。また各地域のオーケストラ等が行う地域の子供を中心とした住民対象の、地域に根ざした活動に対しても積極的に支援する。

（成果）アウトリーチに関わる支援要請は年々増加している。これは、近年子供に対する芸術文化教育の充実が叫ばれていながら、学校では予算的に積極的に行いづらいという背景が考えられる。子供たちに単なる生演奏を体験させるにとどまらず、クラシック音楽に対する関心の掘り起こしが積極的に行われた。当財団が一昨年度から支援している「くらしに音楽プロジェクト」では、ニューヨークフィルの教育部門ディレクターとティーチングアーティストを招聘し、小学生を対象としたワークショップとファミリーコンサートを開催。また、音楽家・教育者・行政担当者などを対象に、ニューヨークフィルの 30 年以上の実績に基づくアウトリーチ活動についての研修・教育セミナー及びパネルディスカッションを開催した。このプロジェクトは、今後の我が国の小中学校における音楽教育及びアウトリーチ活動の在り方に大きなヒントを与えるものと思量されることから、今後も注目していきたい。

① あすなろコンサート 2009

期　日　2009 年 8 月～2009 年 11 月
団　体　あすなろコンサート実行委員会
会　場　日本全国の僻地小規模小学校 34 校
規　模　実施校 34 校（応募校数 158 校）
聴衆 1776 名（生徒 1037 名、保護者等 739 名）
参加音楽家：71 名
助成額　1,000,000 円　（事業費総額：2,360,000 円）

「ひとりでも多くの子どもに生の音楽を」を合言葉に、音楽を通したふれあいによって心豊かな社会づくりを目指す、音楽家による社会貢献活動。プロの演奏家による演奏に接する機会が少ない僻地小規模学校（生徒数 100 人以下）に、東京新宿に本部を置く音楽家ユニオンの地方会員である演奏家が、演奏の他、楽器の説明、演奏指導、コーラスのワークショップ等を行った。音楽の授業で扱う曲や校歌にアレンジを加えたり、土地の童謡を取り入れたりする等、選曲に工夫を凝らしている。2001 年の開始以来、来校を希望する教育者や保護者が年々増加し、成果を上げている。

② 平成 21 年度めぐろパーシモンホール「アーティスト派遣プログラム」

期　日　2009 年 6 月～2010 年 1 月
団　体　（財）目黒区芸術文化振興財団
会　場　1）目黒区立小学校（9 校）　2）目黒区立中学校（3 校）
規　模　1）小学生聴衆者計 554 名　2）中学生聴衆者 253 名
　　派遣アーティスト：延べ 30 人
助成額　1,000,000 円　（事業費総額：2,190,000 円）

直接コンサートホールに来て、音楽鑑賞をしにくい環境にある子どもたちに、彼らのホームグランドへアーティストを派遣する事業。子供たちが優れた芸術に触れ、表現や創造の楽しみを知り、豊かな情操を身につけていく機会の提供を目的としている。事業者、派遣アーティスト、学校による綿密な打合せを行い、プロの生演奏を聴くことはもちろん、アーティストの話、子どもたちの質問、更に一緒に演奏したり、歌ったりといったプログラムの内容で、「交流」することにも重点においている。

③ それいけ！オルガン探検隊 2009

期　日　2009 年 7 月 18 日
団　体　それいけ！オルガン探検隊事務局
会　場　サントリーホール大ホール
規　模　3 公演　10:30～、13:15～、16:00～　参加者計 612 名
助成額　1,000,000 円　（事業費総額：3,860,000 円）

主に小学校の高学年を対象に、パイプオルガンの仕組みと音色について判りやすく、楽しく学んでもらうとともに、本物のパイプオルガンによる演奏を聴いてもらい、より身近に音楽を感じてもらう機会を提供する事業。公演は二部構成となっており、第一部では、オルガン室、パイプ、鍵盤を実際に見学し、パイプオルガンについて楽しく学び、第二部では、客席に座り、オルガンの仕組み、歴史、音色について、模型による実験やスライドを使った判りやすい説明に加え、様々な音色を使ったオルガン演奏を聴いた。終演後は、舞台にあがり、パイプオルガンの装置などについて、スタッフに質問する機会を提供し、オルガンとオルガン音楽に対する興味と知識を深めることができた。

④ ミュージシャンと音楽であそぼう～ニューヨークからの贈り物～

期　日　2009 年 9 月 25 日～10 月 1 日
団　体　くらしに音楽プロジェクト

会　場　新潟大学教育学部付属長岡小学校、同中学校
新潟市民芸術文化会館
港区立南山小学校　港区立赤坂中学校
狛江エコルマホール
規　模　児童、生徒、保護者へのコンサート4校：児童、生徒970名、保護者190名
親子コンサート（新潟市民芸術文化会館）：聴衆350名
ファミリーコンサート（狛江エコルマホール）：聴衆550名
シンポジウム（新潟市民芸術文化会館）：パネリスト4名　聴衆80名
助成額　1,000,000円　（事業費総額：7,430,000円）

ニューヨークフィルより教育部門ディレクター1名とティーチングアーティスト4名を招聘し、以下の事業を実施した。ワークショップ型コンサートの開催（計6回）：単に演奏を聴かせるだけでなく、「奏でる」側と「聴く」側の壁を超えて両者が一体となるよう、ディスカッションしながら進める聴衆参加型のコンサート。本コンサートには、前述のニューヨークフィルの4名のティーチングアーティストの他、日本人演奏家2名が出演した。シンポジウムの開催（1回）：ニューヨークフィルの30年以上の実績に基づくアウトリーチ活動について紹介があり、総合学習の充実と地域文化の振興という面から、アウトリーチ活動を実施する際に留意しなければならない課題、ティーチングアーティストの役割等についてディスカッションされた。
本事業に対する関心は、新潟大学だけに留まらず、神戸大学、鳥取大学、京都産業大学、相愛大学の研究者からも協働研究の可能性を示唆されているとのこと。今後、大学機関との連携を深めることにより、事業の充実と広がりに期待したい。

D）リハビリに分類される事業（2事業）
（内容）障害を持つ子供やお年寄りが演奏等を行なうことによって、機能回復や障害の軽減を目指す事業。
（成果）音楽療法、リハビリに関しては未だ化学的に検証されてはいないが、現在注目を集めている分野であり、今後の更なる発展が期待されている。バリアフリーコンサートでは、障害者と健常者との交流を通して互いに相乗効果を得、また、手足に障害のある参加者が演奏会で手足を動かせるようになるなどのリハビリ効果も見られた。高齢者や障害者の機能回復、障害の軽減を目指す先駆けとなっている事業を支援する意義は大きい。

① みんなの音楽会
期　日　2009年7月11日（静岡）、9月27日、28日（東京）、10月24日（沖縄）
団　体　（財）東京ミュージック・ボランティア協会
会　場　静岡コンベンションアーツセンター、浴風会大ホール（東京）
沖縄市民会館
規　模　静岡　出演者　障害者団体13（307名）　観客・スタッフ763名
東京　出演者　障害者団体10、高齢者団体14　（合計420名）
観客・スタッフ525名
沖縄　出演者　障害者団体4、高齢者団体3　（合計167名）

観客・スタッフ 201 名

助成額　1,000,000 円　（事業費総額:2,670,000 円）

当該協会は全国の老人施設や身障センター約 460 施設にて療養音楽の実践、指導者の育成を行っている。本事業は、高齢者や心身に障害のある方々が、リハビリテーションを目的に楽器の練習に取り組み、年 1 回その成果を発表できる唯一の音楽会である。東京開催は 35 回目、沖縄開催は 18 回目、静岡開催は 8 回目を迎え、いずれの会場も大盛況のうちに終了した。出演した高齢者、障害のある方々は、日頃の練習の成果を出し切り、参加者間の交流の輪も広がり、自信や、活力を見出すことが出来た。

② バリアフリーコンサート「夢・響き愛」第 5 回開催

期　日　2009 年 4 月 1 日～2010 年 3 月 31 日

団　体　NPO 法人 町田楽友協会

会　場　町田市民ホール（バリアフリーコンサート「夢・響き愛」会場）
さくらんぼホール（ミニコンサート）、響きの森ホール（練習会場）

規　模　コンサート（2010 年 3 月 22 日） 出演者 128 名　聴衆 650 名
ミニコンサート（2009 年 7 月 20 日） 出演者 48 名　聴衆 70 名
練習（毎月第 4 日曜日 14:00～16:00） 参加者　延べ 670 名

助成額　1,000,000 円　（事業費総額:2,900,000 円）

障害者、健常者、プロ・アマ、老若男女の区別なく、お互いの立場を理解しながら、1 年間練習を重ね、3 月 22 日開催のバリアフリーコンサートでその成果を発表した。一つの音楽を作り上げる過程で、障害者が自信を持って練習に励んだことにより、動かなかった手足も動くようになり良いリハビリになったとの報告も受けている。これは障害者だけの問題ではなく、それに刺激を受けた健常者もそれを見て挑戦する勇気をもらい、自分では不可能と思っていた演奏でも負けずに練習することにより、技術も向上するなど、相乗効果も得られた。最終的に開催した合同コンサートを終え、出演した障害者、高齢者はもちろん、家族の表情にも明るさが見られ、まさにバリアフリーを実践した事業となった。

E）パートナーの育成に分類される事業（本年度は該当事業なし）

（内容） 当財団主催の演奏会を東京以外の地域で積極的に開催するためのパートナー育成を図る。これまでの国内・海外演奏会のノウハウを提供することによって、協力関係を築く。東京以外の都市で協力機関の拡大を図ることは、当財団の知名度を全国的に高めるとともに、地方においてより質の高いコンサートを提供できるものと考えている。

なお、本年度、パートナーの育成という範疇ではなかったが、以下に示す事業は、地方のホールとの協力関係を構築するという側面も兼ね備えていたため、参考までに本項に記載する。

①オーケストラ・アンサンブル金沢/井上道義指揮者講習会（前述）
ホール:石川県立音楽堂

②スティーヴン・イッサーリス室内楽プロジェクト 2009（後述）
ホール:神奈川県民ホール

③三河市民オペラ2009年公演 ジョルジュ・ビゼー作曲「カルメン」全4幕（後述）
ホール：アイプラザ豊橋
④竹澤恭子＆江口玲 チャリティコンサート／地方における演奏会の開催事業（後述）
ホール：石川県立音楽堂

F）その他（5事業）

上記 5 項目に該当しない事業であっても、音楽文化の発展に有益と認められる事業。特に、新たな試みの発掘を目的とする。

① スティーヴン・イッサーリス室内楽プロジェクト2009

期　日　2009年4月25日～5月1日
団　体　（財）神奈川芸術文化財団
会　場　神奈川県民ホール小ホール
規　模　全4公演／出演者数延べ51名
助成額　1,500,000円　（事業費総額：11,910,000円）

現在、世界最高のチェリストと目され、また、独自の視点に基づいた室内楽プロジェクトの企画構成者としても世界的評価を得ているスティーヴン・イッサーリス氏の企画構成・出演による本格的室内楽プロジェクト。（同氏には、1998年1月からストラディヴァリウス1730年製チェロ「フォイアマン」を貸与中）
4日間に亙る公演は、初日は、メンデルスゾーンのピアノ・トリオの名曲2曲を含めた室内楽コンサート、2日目は子供のためのコンサート、3日目はトウキョウ・モーツァルト・プレーヤーズ（管弦楽）とのコンチェルト共演（弾き振り）、最終日はチェロ・リサイタルと工夫を凝らしたオリジナルなプログラムで構成され、聴衆に大きな満足感と感動を与えることができた。

② モーツァルトにおける未完成と完成～断片の魅力～

期　日　2009年5月23日
団　体　日本モーツァルト研究所
会　場　白寿ホール
規　模　第1部：ラウンド・テーブル
パネリスト5名（内、外国人講師3名） コーディネーター1名（海老沢 敏）
聴衆 157名
第2部：レクチャー・コンサート
プレトーク 海老沢 敏　演奏者7名（内、外国人演奏家1名）
聴衆 約300名
助成額　1,500,000円　（事業費総額：7,100,000円）

近年、その重要性が認識され、研究者のみならず、演奏家の間でも関心が高まってきているモーツァルトの「断片」「未完作品」の問題に照明を当て、研究（ラウンド・テーブル）と演奏実践（レクチャー・コンサート）の両面からアプローチした。
国内外の専門家を招いて行われた第1部のラウンド・テーブルでは、各パネリストからの発表をもとに活発な議論が展開され、モーツァルトにおける作品創

造に重要な役割を果たしている「断片」「未完作品」の意味とそれらの「補筆」完成の試みにおける問題について多くの示唆が与えられた。また、ロバート・レヴィン（現代ピアノ並びにフォルテピアノの奏者として、また、音楽学者、とりわけモーツァルトの断片の補筆で世界的に知られる）の補筆版世界初演を含む補筆完成版を取り上げた第 2 部のレクチャー・コンサートでは、補筆完成における問題、そして補筆完成版の醍醐味とは何なのかについて、レクチャーと実際の響きにより確認することができたと聴衆から大好評を博した。

③ 三河市民オペラ 2009 年公演 ジョルジュ・ゼビー作曲「カルメン」全 4 幕

期　日　2009 年 5 月 30 日及び 31 日（2 公演）
団　体　三河市民オペラ制作委員会
会　場　アイプラザ豊橋大ホール
規　模　出演者：
ソリスト 12 名（内、7 名は公開オーディションで選出）
合唱団 154 名（内、117 名は、22 名の児童を含め一般公募）
オーケストラ 40 名（中部日本交響楽団）
特別出演・賛助出 23 名
（豊橋市長、豊川市長、陸上自衛隊豊川駐屯地、他）
観客 2800 名（1400 名×2 日）
助成額　1,500,000 円　（事業費総額：30,770,000 円）

この事業は、総合舞台芸術であるオペラを、市民が企画・運営から実施まで行うことにより、東三河地区に今までなかった、より愉しい音楽やオペラの楽しみ方、取組み方を提案し、市民、企業、行政が一体となり、三河の音楽文化を全国に発信することを目的としていた。

会場のアイプラザ豊橋大ホールは、客席数 1492 と東三河最大級のホールであるが、小学生からお年寄りまで幅広い客層で満席となり、熱気に溢れた舞台と観客が一体となったその情景は、「市民オペラだから、東三河だからこんな程度、と言われるような舞台にはしたくない。」「観客だけでなく、参加した者全てが感動し幸せになれるような舞台を目指す。」という三河市民オペラ制作委員会、製作スタッフ、キャストの強い思いが結実した姿となった。

地元紙は公演前から本公演を積極的に取り上げ、公演後も写真入りで大きく掲載したことにより、公演関係者、観客以外の地域住民にも本事業が周知され、オペラに対する関心が深まり、東三河地区の音楽文化の発展に大きく寄与したものと思量される。

④ ガダニーニ・コンクールの開催

期　日　2009 年 12 月～2010 年 4 月 4 日
団　体　ガダニーニ・コンクール実行委員会
会　場　トッパンホール
規　模　録音審査応募者 33 名（中学生 9 名、高校生 14 名、大学生 10 名）
予選出演者 19 名（中学生 6 名、高校生 9 名、大学生 4 名）
本選出演者 11 名（中学生 3 名、高校生 5 名、大学生 3 名）
審査員 4 名（辰巳明子、前橋汀子、清水高師、ジロードン八重子）

助成額　1,000,000 円　（事業費総額：4,060,000 円）

本事業は、プロのヴァイオリニストを目指す、まだ無名の学生（中学生～大学生）を対象としたコンクールを開催し、1 位～3 位の学生に 2 年間、名器（楽器商である株式会社コトが無償提供する。1位：J.B.ガダニーニ Violin、 2 位：G.F.プレッセンダ Violin、3 位：J.B.ヴィヨーム Violin）を貸与することにより、国際的に通用する演奏家を発掘・育成・支援することを目的として実施した。

若手演奏家にとって、名器といわれる楽器を演奏する機会を得ることは、その成長過程において素晴らしい経験となり、さらにワンステップ飛躍することが期待できるといわれている。

日本の一楽器商が若手演奏家のために自らが保有する名器を無償で貸与するということは、これまでに例のないことであり、当財団としても大いに賛同できる事業ということで支援することとした。将来的には、当該コンクールの入賞者が次のステップとして当財団保有のストラディヴァリウス或いはグァルネリ・デル・ジェスの貸与者に選出されることも期待したい。

（コンクールの結果）

第 1 位　弓　　新　（17 歳）　チューリッヒ芸術大学音楽学部
第 2 位　鈴木　舞　（20 歳）　東京藝術大学音楽学部
第 3 位　篠原　悠那（16 歳）　桐朋女子高等学校音楽科
第 3 位　徳田　真侑（14 歳）　長久手町立南中学校

今回は、第 3 位受賞者が 2 名となったため、3 位の楽器は 1 年間ずつ貸与する。

⑤　青少年に対する交響楽の普及

期　日　2009 年 4 月～2010 年 3 月
団　体　（社）日本オーケストラ連盟
会　場　全国のコンサートホール、学校等
規　模　出演者　日本オーケストラ連盟に加盟する 23 団体のオーケストラ
　　聴衆　演奏会への無料招待（延べ 26 公演）　871 名
　　訪問コンサート　　（延べ 12 公演）2160 名
助成額　1,500,000 円　（事業費総額：2,300,000 円）

日本オーケストラ連盟に加盟するオーケストラの協力を得て、それぞれのオーケストラが主催する青少年向けコンサートに無料で招待、あるいは、学校、児童福祉施設などでの訪問コンサート、ワークショップを開催した。

この青少年に対する交響楽の普及事業は、2004 年 10 月 20 日の皇后陛下の古希をお祝いして、世界的チェロ奏者・指揮者のムスティラフ・ロストロポーヴィチ氏が行った「We Love Japan ロストロポーヴィチ スペシャルコンサート」の収益金が日本オーケストラ連盟に寄贈されたことを受けて発足した事業であり、小学校高学年から高校生を対象に、クラシック音楽に触れる機会を提供し、その魅力を知ってもらうとともに、青少年の情操、感性の涵養を図ることを目的としている。

本事業の実施により、全国レベルでの将来のクラシック音楽ファン層の拡大が期待され、同時に青少年の健全な育成にも寄与したものと思量される。

３．　地方における演奏会の開催事業

「オーケストラ・アンサンブル金沢　福祉コンサート」実施支援
竹澤恭子　＆　江口玲　チャリティコンサート

日時と場所	2010 年 2 月 2 日（火）
	レセプション　18:00～　ANA クラウンプラザホテル 3 階「瑞雲」
	演奏会　　19:00～　石川県立音楽堂　邦楽ホール（727 席）
主　　催	（財）石川県音楽文化振興事業団
特別協力	（財）日本音楽財団
協　　力	日本財団
チケット販売	一律 4,000 円（オーケストラ・アンサンブル金沢定期会員 3,000 円）
チャリティー先	オーケストラ・アンサンブル金沢「福祉コンサート」事業
出　　演	竹澤恭子（Stradivarius 1710 Violin “Camposelice”使用）
	江口　玲（ピアノ）

演奏曲目

ブラームス ： ヴァイオリン・ソナタ「F.A.E.のソナタ」（第 3 楽章　スケルツォ）
ブラームス ： ヴァイオリン・ソナタ　第 2 番　イ長調 Op.100
サン=サーンス ： ハバネラ Op.83
ドヴォルザーク／クライスラー ： スラヴォニックファンタジー
バルトーク ： ルーマニア民俗舞曲
ワーグナー ： ロマンツァ
サラサーテ ： チゴイネルワイゼン Op.20
（アンコール）　ブラームス: ハンガリー舞曲第 1 番

オーケストラ・アンサンブル金沢では、知的な障害を持った人、身体的な障害を持った人に可能な限り良好な演奏会鑑賞環境を提供する「福祉コンサート」を実施している。今回のチャリティコンサートは、その「福祉コンサート」実施を支援するものである。

一般にチケット販売するだけでなく、地元の才能教育研究会（スズキ・メソード）の子供達や、ジュニアオーケストラメンバー、音楽関係者を招待し、会場は満席の盛況となった。当日は、コンサートに先立ち、金沢市の政財界の有力者約 70 名が参加したレセプションを開催し、財団の広報に努めるともに、音楽を共通分母とする交流・歓談の場を提供した。

来場者には当財団のパンフレットを配布、更にホール入口横のホワイエには、ヴァイオリンの製作プロセスを説明した財団所有のパネル 11 枚を展示し、当財団の広報に努めた。また、コンサートの途中、オーケストラ・アンサンブル金沢の音楽監督である井上道義と当財団理事長である塩見とのユニークなトークショーが行われ、当財団の事業に対する理解、特に楽器貸与事業に対する理解がより深まったと思量される。

今回の演奏会のチケット販売による収入は全てオーケストラ・アンサンブル金沢に寄贈され、オーケストラ・アンサンブル金沢は、この収入から負担すべき経費を差し引いた収益全てを「福祉コンサート」のために充当することになっている。
本演奏会の実録 CD を作成し、当財団の事業広報に活用した。

4. 協 力 事 業

関連団体の主催する事業に、下記内容の協力を行った。

(1) 名　　称　　日本太鼓チャリティコンサート
　　協力依頼元　　(財)日本太鼓連盟
　　期　　日　　2008 年 6 月 5 日(金)　草月ホール
　　協力内容　　コンサート当日の受付等の補助業務

(2) 名　　称　　第 52 回東京国際ギターコンクール
　　期　　日　　2009 年 11 月 21 日(土)、22 日(日)
　　会　　場　　東京文化会館小ホール
　　主　　催　　(社)日本ギター連盟
　　協力内容　　後援名義「財団法人日本音楽財団」の使用許諾

(3) 名　　称　　第 4 回仙台国際音楽コンクール
　　期　　日　　2008 年 10 月募集開始～2010 年 6 月 27 日(日)ファイナル
　　会　　場　　仙台市青年文化センター
　　主　　催　　仙台国際音楽コンクール組織委員会、仙台市
　　協力内容　　後援名義「財団法人日本音楽財団」の使用許諾

5. 広 報 活 動

日本音楽財団の事業活動を広く世の中に周知するため、以下のような広報活動を展開している。

(1) 財団パンフレット(日本語、英語併記)を作成し、広く一般に配布している。
(2) ホームページ(日本語、英語)にて、財団の事業活動全般について紹介している。
(3) 財団ブログにて、コンサート開催状況を中心に財団の事業活動を紹介している。
(4) 財団主催演奏会の CD、DVD を作成し、国内外の音楽関係機関、オピニオンリーダー等に配布している。本年度作成した CD、DVD は以下のとおり。
　1) Erik Schumann ヴァイオリン・リサイタル CD(2009 年 8 月 27 日開催)
　2) Encouter with Stradivari 2009 CD&DVD(2009 年 11 月 5 日開催)
　3) 竹澤恭子ヴァイオリン・リサイタル CD(2009 年 12 月 8 日開催)
　4) Encouter with Morzart's Child Violin CD&DVD(2009 年 12 月 11 日開催)
　5) 竹澤恭子＆江口玲チャリティ・コンサート CD(2010 年 2 月 2 日開催)
　6) 石坂団十郎　チェロ・リサイタル CD(2010 年 2 月 19 日開催)
(5) 楽器貸与者との間で締結している貸与契約書に以下の内容を明記し、楽器貸与事業の周知・広報を図っている。
　1) 貸与者は、報道機関のインタビューや公演会プログラムにおいて、貸与楽器の名称並びに当該楽器が日本音楽財団から貸与されていることの事実を周知・広報する。
　2) 貸与楽器による演奏が、CD、DVD 等の形で制作されるときは、貸与者は、貸与楽器の名称並びに当該楽器が日本音楽財団から貸与されていることの事実を当該

制作物に明確に表示する。

3) 貸与者は、1 年に 1 度、3 月末日に前年 4 月からの演奏会（開催日、開催場所、演奏曲目、入場者数等）並びに CD、DVD 制作に関する活動内容報告書を日本音楽財団に提出する。

本年度、貸与者 18 名から提出された報告によると、2009 年度における財団保有楽器を使用した演奏会は 688 回、聴衆は合計で約 78 万 2 千人となっている。

また、貸与者が本年度中にリリースした CD は以下のとおりである。

① Steven Isserlis　Schumann Violin Sonata (arr. Isserlis) （2009 年 3 月）
② Viviane Hagner　Unsuk Chin: Rocana Violin Concerto （2009 年 4 月）
③ 安永　徹　Souvenir fur Toru Yasunaga （2009 年 8 月）
④ 千葉純子　ヴァイオリン名曲の花束（2009 年 10 月）
⑤ Arabella Miho Steinbacher
シマノフスキ／ドヴォルザーク:ヴァイオリン協奏曲 （2009 年 11 月）
⑥ 竹澤　恭子　ブラームス:ヴァイオリン・ソナタ集（全曲）（2009 年 12 月）
⑦ 南紫音　ブルーム （2010 年 3 月）

(6) 衛星デジタルラジオ局「MUSIC BIRD　THE　CLASSIC」並びに衛星デジタルテレビ「CLASSICA JAPAN」の協力を得て、当財団主催の国内外の演奏会で作成した実録 CD、DVD を放送し、不特定多数の方々にストラディヴァリウスの華麗な響きを楽しんでもらい、楽器貸与事業の周知・広報を図っている。（前述）

(7) 音楽雑誌、新聞、その他マスメディアの取材要請、財団所有楽器の写真提供要請に応え、財団の活動の周知・広報を図っている。2009 年度における主な掲載記事の内容、放送内容は以下のとおりである。

① モーストリー・クラシック 特集「人類の遺産ストラディヴァリウス」
（2010 年 2 月 20 日発行）
塩見理事長へのインタビュー記事、楽器貸与者である石坂団十郎、東京クァルテットの池田菊衛へのインタビュー記事、財団所有楽器一覧、ストラディヴァリウス「Lady Blunt」の写真等が掲載されている。

② UBS 北海道文化放送（テレビ）
のりゆきのトーク DE 北海道:「年の瀬は音楽で元気になろう」
（放送日時:2009 年 12 月 18 日（金）09:54～11:24）
アントニオ・ストラディヴァリについてのトークの際に当財団から提供したストラディヴァリウス 「Paganini Quartet」と「Dolphin」の写真が使用された。

③ 成美堂出版 「一冊でわかる楽器ガイド」（2009 年 9 月 10 日発行）
ヴァイオリンの名器の項で当財団から提供したストラディヴァリウス「Dolphin」とデル・ジェス「Ysaye」の写真が掲載されている。

④ 英国の音楽専門雑誌「The Strad」の 2010 年カレンダー（8 月の頁）に当財団から提供したストラディヴァリウス「Dolphin」の写真が掲載されている。

別表 1

財団法人 日本音楽財団理事・監事名簿

（2010 年 3 月 31 日現在、敬称略）

会　長	小 林　實	(財)地域活性化センター顧問
理 事 長	塩 見 和 子	常 勤
常務理事	小 関 悦 男	常 勤

（以下理事はアルファベット順）

理　事	海 老 澤　敏	尚美学園大学大学院特別専任教授
理　事	福 井 俊 彦	元日本銀行総裁 一般財団法人ｷｬﾝﾉﾝｸﾞﾛｰﾊﾞﾙ戦略研究所理事長
理　事	長 谷 川 和 年	世界平和研究所理事、元駐オーストリア大使
理　事	畠 山 向 子	(財)畠山記念美術館館長
理　事	日 野 原 重 明	聖路加国際病院名誉院長
理　事	岩 淵 龍 太 郎	ヴァイオリニスト
理　事	児 玉 幸 治	(財)機械システム振興協会会長
理　事	松 木 康 夫	新赤坂クリニック名誉院長
理　事	新 田　勇	元(株)東芝専務取締役
理　事	斉 藤 邦 彦	元駐アメリカ合衆国大使 (社)外交知識普及会理事長
理　事	佐 治 俊 彦	毎日新聞社社友
理　事	植 村 伴 次 郎	(株)東北新社最高顧問
監　事	垣 見　隆	弁護士
監　事	山 内 悦 嗣	公認会計士

別表 2

財団法人 日本音楽財団評議員名簿

（2010 年 3 月 31 日現在、敬称略）

（アルファベット順）

安　倍　　寧	音楽評論家
相　川　直　樹	（財）国際医学情報センター理事長
荒蒔　康一郎	キリンホールディングス（株）相談役
リシャール・コラス	シャネル（株）社長
海老沢勝二	学校法人大隈記念早稲田佐賀学園　副理事長
藤　田　　潔	（株）ビデオプロモーション会長
木　全　ミ　ツ	NPO 法人女子教育奨励会理事長
清　原　武　彦	産経新聞社会長
小　林　道　夫	ピアニスト、チェンバロ奏者
前　　和　男	東京音楽大学顧問
奈　良　久　彌	（株）三菱総合研究所特別顧問
須　磨　久　善	（財）心臓血管研究所付属病院スーパーバイザー 心臓外科医
丹　治　　誠	元日本銀行理事
矢　野　文　一	（財）自治総合センター監事

別表　3

事業委員名簿

（2010 年 3 月 31 日現在、敬称略）

楽器貸与委員　（欧州・米国・アジアの代表で構成）

委員長	Lorin Maazel	指揮者
	Marta Casals-Istomin	マンハッタン音楽院前学長
	Ana Chumachenco	ヴァイオリニスト、ミュンヘン音楽大学教授
	Kyung-Wha Chung	ヴァイオリニスト、ジュリアード音楽院教授
	海 老 澤　　敏	本財団理事
	Jean-Pierre de Launoit	エリザベート王妃国際音楽コンクール理事長
	Curtis Price	ニューカレッジオックスフォード学長
	Janos Starker	チェリスト、インディアナ大学音楽学部教授
	塩　見　　和　子	本財団理事長

事業運営委員

委 員 長	鹿 海 信 也	元文化庁文化部長

（以下委員はアルファベット順）

委　　員	藤 掛 廣 幸	作曲家
委　　員	岩 井 宏 之	音楽評論家
委　　員	川 本 統 脩	洗足学園音楽大学講師
委　　員	齋 藤 一 郎	東京芸術大学名誉教授
委　　員	関 根 五 郎	(財)NHK 交響楽団団友
委　　員	塩 見 和 子	本財団理事長

別表　4

財団保有楽器の概要

（2010 年 3 月 31 日現在）

Stradivarius “Paganini Quartet”

ストラディヴァリのクァルテットは地球上に 6 セットしか存在しないと言われているが、このクァルテットはそのうちの 1 つである。19 世紀におけるイタリアの卓越したヴァイオリンの巨匠ニコロ・パガニーニ（1782-1840）が、クァルテット演奏に相応しい 4 挺を収集し演奏していたことからこの名前が付けられた。パガニーニは、特にヴィオラの音質に感銘を受けたためフランスの作曲家エクトル・ベルリオーズ（1803-1869）にヴィオラのための交響曲を委託し、その結果『イタリアのハロルド』が作曲された。当財団は 4 挺を常にセットとして使用し続けてもらうために、現在「東京クァルテット」に貸与している。

このクワルテットは、1680 年製作のヴァイオリン、1727 年製作のヴァイオリン、1731 年製作のヴィオラ、1736 年製作のチェロにより構成されている。

1994 年 2 月に米国・ワシントン D.C.のコーコラン美術館から当財団が購入したものである。

1700 年製 Stradivarius Violin “Dragonetti”

このヴァイオリンはネックの部分が製作当時のオリジナルのままという、とても貴重な楽器である。著名なコントラバス奏者ドメニコ・ドラゴネッティ（1763-1846）によって所有されていたことから現在この名前で呼ばれている。ドラゴネッティは、コレクションとして、コントラバス、ヴァイオリン、チェロ、ハープ、ギターなどを収集していた。最近では、世界的なヴァイオリン奏者、フランク・ピーター・ツィンマーマン（1965-　）によって世界各国で演奏されていた。

2002 年 6 月に当財団が購入したものである。

1702 年製 Stradivarius Violin “Lord Newlands”

イギリスのニューランズ卿（1890-1929）によって生涯大切に所有されていたため現在このように呼ばれている。1964 年から 1982 年にこの楽器を保管していたロンドンのヒル商会が、1973 年にバースの古楽器名器展示会にて、当時のヒル商会を代表する楽器としてこのヴァイオリンを展示した。世界的に著名なヴァイオリン奏者アイザック・スターン（1920-2001）はこの楽器を演奏した際、自身が所有しているデル・ジェスと同じパワーを感じる、と語っていた。

2002 年 6 月に当財団が購入したものである。

1708 年製 Stradivarius Violin “Huggins”

この楽器を 1880 年頃に所有していたイギリスの著名な天文学者であるウィリアム・ハギンス卿（1824-1910）に因んで「ハギンス」と呼ばれている。この楽器は 1997 年以降ベルギー・エリザベート王妃国際音楽コンクール・ヴァイオリン部門優勝者に貸与され、4 年ごとに次の優勝者に引き継がれている。過去の優勝者はデンマークのニコライ・ズナイダー（1997）、ラトビア出身のバイバ・スクリッド（2001）で、現在は 2005 年の優勝者セルゲイ・ハチャトリアンに貸与。なお、2009 年よりコンクールの周期が 3 年ごととなるため、貸与期間も 3 年となる。

1995 年 3 月に当財団が購入したものである。

1709 年製 Stradivarius Violin “Engleman”

このヴァイオリンは、海軍中佐ヤングが第 2 次世界大戦で戦死して手離されるまでの 150 年間、ヤング家で大切に保管されていたため、音色も楽器の保存状態も稀なほど良好である。当財団が所有する以前は、アメリカのアマチュア・ヴァイオリン奏者で収集家のエフレイム・エングルマンが所有していたため「エングルマン」と呼ばれている。

1996 年 5 月に当財団が購入したものである。

1710 年製 Stradivarius Violin “Camposelice”

このヴァイオリンは 1880 年代にカンポセリーチェ公爵の手に渡ったことから「カンポセリーチェ」と呼ばれている。その後 1894 年にボストンで美術館を設立したジャック・ガードナー夫人の手に渡り、作曲家でありヴァイオリン奏者であったマーティン・ローフラーによって 1928 年まで演奏・保管されていた。1937 年にはクレモナ楽器名器展示会にキューネ博士のコレクションとして展示されている。財団が購入する前は、30 年間以上ベルギーのアマチュア奏者のもとで大切にされてきた楽器である。楽器の内側の状態はオリジナルのままであり、楽器全体の状態は良好である。

2004 年 9 月に当財団が購入したものである。

1714 年製 Stradivarius Violin “Dolphin”

この楽器は現在最も知名度の高い名器の 1 つといっても過言ではない。音色並びに保存状態も優れており、1715 年製「アラード」と 1716 年製「メシア」に並ぶストラディヴァリウスの 3 大傑作の 1 つと言われている。この楽器は、過去に巨匠ヤシャ・ハイフェッツ（1901-1987）によって使用されていた。裏板の美しいニスの光沢と色がまるで優美なイルカのようだということから、1800 年代後半の所有者でありロンドンの楽器商のジョージ・ハートが「ドルフィン」という名を付けた。

2000 年 2 月に当財団が購入したものである。

1715 年製 Stradivarius Violin “Joachim”

この楽器は、有名なハンガリーのヴァイオリン奏者、ヨーゼフ・ヨアヒム (1831-1907) が所有していた 5 挺のストラディヴァリウス 1715 年製ヴァイオリンの 1 つである。この楽器はヨアヒムからヴァイオリン・レッスンを受けていたヨアヒムの兄弟の孫娘アディラ・アラニに遺贈されたため「ヨアヒム＝アラニ」としても知られている。日本音楽財団が購入するまで、アラニ家に代々受け継がれてきた。

2000 年 9 月に当財団が購入したものである。

1716 年製 Stradivarius Violin “Booth”

1855 年から 1856 年にかけてイギリスのブース夫人が息子のために購入し所有していたため、現在の名前が付けられた。1931 年にはアメリカの名高いヴァイオリン奏者、ミシャ・ミシャコフ（1896-1981）の手に渡った。1961 年には、このヴァイオリンはニューヨークのホッティンガー・コレクションの一部となり、そのコレクションカタログにも写真が掲載されている。

1999 年 1 月に当財団が購入したものである。

1717 年製 Stradivarius Violin “Sasserno”

1845 年からフランスのサセルノ氏が所有していたことから「サセルノ」と呼ばれている。1894 年にはヴァイオリン奏者のオト・ペイニガーによって所有され、後にイギリスで有名な醸造所を所有していたピカリング・フィップスが購入した。1906 年にはイギリスの産業資本家ジョン・サマーズの手に渡り、それ以後 90 年以上同家で大切に保管されていたため、製作時のままの素材が多く残っており保存状態が非常に優れている。

1999 年 5 月に当財団が購入したものである。

1721 年製 Stradivarius Violin “Lady Blunt”

このヴァイオリンは、ラブレス伯爵の娘で、詩人として有名なバイロンの孫娘のレディアン・ブラントが所有していたことからこの名前で呼ばれている。アシュモレアン博物館所有の 1716 年製「メシア」そして 1690 年製「タスカン」と同様、ほとんど未使用。保存状態が非常に優れており製作当時のオリジナルのネックとバス・バーが残っている。糸巻きの箱の中に"P.S"と記されているのは、アントニオ・ストラディヴァリの息子、パオロが所有していたときに付記された。

2008 年 6 月に当財団が購入したものである。

1722 年製 Stradivarius Violin “Jupiter”

このヴァイオリンは、1800 年頃にイギリスの偉大な収集家で当時の所有者のジェームス・ゴディングが名付けたと言われている。また、大切に使用されてきたため保存状

態が素晴らしく、オリジナル・ニスも十分に残っている。日本が世界に誇るヴィオリン奏者、五嶋みどり（1971-　）も演奏したことがある名器である。
1998 年 5 月に当財団が購入したものである。

1725 年製 Stradivarius Violin “Wilhelmj”

1866 年以降、約 30 年間この楽器を所有していた著名なドイツのヴァイオリン奏者、オウガスト・ウィルヘルミ（1845-1908）に因んで「ウィルヘルミ」という名が付けられた。ウィルヘルミの所有していた数多くのヴァイオリンのうち最も愛用されていた楽器だったが、「演奏者として華のあるうちに引退したい」と言い、アメリカの弟子に手渡されたという。
2001 年 6 月に当財団が購入したものである。

1736 年製 Stradivarius Violin “Muntz”

内側に貼られたラベルにストラディヴァリ本人の手書きで「92 歳の作品」と書かれている珍しい楽器である。透明な黄褐色のニスが楽器のほぼ全体にきれいに残っており、保存状態も音色も格段に優れている。1874 年以降、イギリスの収集家ムンツ氏が所有していたため、「ムンツ」と呼ばれている。1737 年に死去したストラディヴァリが、亡くなる直前に製作した楽器の 1 つとして知られている名器である。
1997 年 7 月に当財団が購入したものである。

1696 年製 Stradivarius Cello “Lord Aylesford”

アマチュア奏者として有名であったイギリスのアイレスフォード卿が 1780 年代初期にイタリアの名高いヴァイオリン奏者フェリーチェ・デ・ジャルディーニ（1716-1796）から購入し、その後アイレスフォード家に約 100 年間所有されていたことからこの名前が付けられた。1946 年にはアメリカ在住の世界的に著名なチェロ奏者グレゴール・ピアティゴルスキー（1903-1976）の手に渡り、続いて 1950 年から 1965 年には世界が認めるチェロの巨匠ヤーノシュ・シュタルケル（1924-　）によって演奏会や 35 枚のレコーディングのために使用された。
2003 年 6 月に当財団が購入したものである。

1730 年製 Stradivarius Cello “Feuermann”

通常のチェロと比べ、楽器本体の部分の細長い形が特徴である。世界的に著名なオーストリアのチェロの巨匠、エマニュエル・フォイアマン（1902-1942）が 1930 年から、演奏活動やレコーディングに使用したことから、「フォイアマン」と呼ばれている。1956 年には、ブラジル出身のチェロ奏者、アルド・パリソットの手に渡った。
1996 年 12 月に当財団が購入したものである。

1736 年製 Guarneri del Gesu Violin “Muntz”

アントニオ・ストラディヴァリと並び称される名工、グァルネリ・デル・ジェス（1698～1744）の手によるヴァイオリン。イギリスの収集家ムンツが一時期所有していたことから、この名前で親しまれている。日本音楽財団ではストラディヴァリとグァルネリによって同じ 1736 年に製作された 2 挺の「ムンツ」を保有しており、その 2 挺を弾き比べるために 2000 年 7 月と 2007 年 2 月の 2 回、演奏会を東京で開催し、音色を披露違いの聴き比べを行った。

1995 年 3 月に当財団が購入したものである。

1740 年製 Guarneri del Gesu Violin “Ysaye”

この楽器はベルギーの国家的ヴァイオリン奏者ウジェーヌ・イザイ（1858-1931）が所有していたことから「イザイ」という名が付いた。イザイの提案でベルギーのエリザベート王妃が 1937 年に実現したのが前述のエリザベート王妃国際音楽コンクールである。この楽器の中には小さなラベルが貼られ、赤いインクで「このデル・ジェスは私の生涯を通じて忠実なパートナーだった」とフランス語で書かれている。イザイ国葬の際には棺の前をクッションに載せられ行進した名器である。その後、1965 年に世界的に著名な巨匠アイザック・スターン（1920-2001）の所有となり生涯愛用した。

1998 年 3 月に当財団が購入したものである。

以上、当財団はストラディヴァリウス・ヴァイオリン 15 挺、ストラディヴァリウス・チェロ 3 挺、ストラディヴァリウス・ヴィオラ 1 挺、グァルネリ・デル・ジェス・ヴァイオリン 2 挺の合計 21 挺の弦楽器を所有している。

別表 5

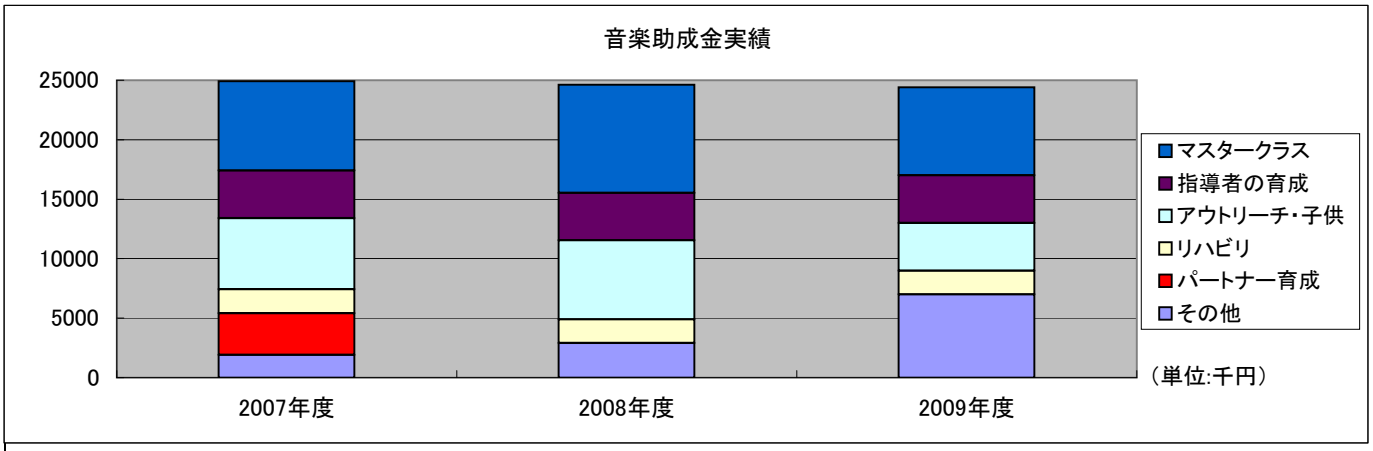
楽器名と貸与者一覧

2010/3/31現在

楽器名	貸与演奏家	貸与開始	備考
(長期貸与)			
Antonio Stradivari "Paganini Quartet"	Tokyo String Quartet	1995/9/27	
(1)Violin 1680	池田菊衛	1995/9/27	ﾆｭｰﾖｰｸ在住
(2)Violin 1727	Martin Beaver	2002/6/1	〃
(3)Viola 1731	磯村和英	1995/9/27	〃
(4)Cello 1736	Clive Greensmith	1999/6/25	〃
(5)Antonio Stradivari 1700 Violin "Dragonetti"	Veronika Eberle	2009/5/11	ﾄﾞﾅｳｳﾞｪﾙﾄ(ﾄﾞｲﾂ)在住
(6)Antonio Stradivari 1702 Violin "Lord Newlands"	Sergey Khachatryan	2005/5/31	ｴｯｼｭﾎﾞﾙﾝ(ﾄﾞｲﾂ)在住 2005年ｴﾘｻﾞﾍﾞｰﾄｺﾝｸｰﾙ優勝Huggins貸与
(7)Antonio Stradivari 1708 Violin "Huggins"	Ray Chen	2009/6/2	ﾌｨﾗﾃﾞﾙﾌｨｱ(ｱﾒﾘｶ)在住 2009年ｴﾘｻﾞﾍﾞｰﾄｺﾝｸｰﾙ優勝Huggins貸与
(8)Antonio Stradivari 1709 Violin "Engleman"	Lisa Batiashvili	2001/11/20	ﾐｭﾝﾍﾝ在住
(9)Antonio Stradivari 1710 Violin "Camposelice"	Hyun-Su Shin	2010/3/10	ｿｳﾙ在住
(10)Antonio Stradivari 1714 Violin "Dolphin"	諏訪内晶子	2000/8/11	ﾊﾟﾘ在住
(11) Antonio Stradivari 1715 Violin "Joachim"	Geza Hosszu-Legocky	2009/11/5	ﾛｰｻﾞﾝﾇ(ｽｲｽ) 在住
(12)Antonio Stradivari 1716 Violin "Booth"	Arabella Miho Steinbacher	2005/5/6	ﾐｭﾝﾍﾝ在住 2005/5よりStrad. Muntz貸与 2006/9よりStrad. Booth貸与
(13)Antonio Stradivari 1717 Violin "Sasserno"	Viviane Hagner	1999/5/27	ﾍﾞﾙﾘﾝ在住
(14)Antonio Stradivari 1722 Violin "Jupiter"	Manrico Padovani	2009/11/8	ﾃｨﾁｰﾉ (ｽｲｽ)在住
(15)Antonio Stradivari 1725 Violin "Wilhelmj"	Baiba Skride	2001/5/29	ﾊﾝﾌﾞﾙｸ(ﾄﾞｲﾂ)在住 2001年ｴﾘｻﾞﾍﾞｰﾄｺﾝｸｰﾙ優勝Huggins貸与
(16)Antonio Stradivari 1736 Violin "Muntz"	Yuki Manuela Janke	2007/11/2	ｸﾞﾛｰﾍﾞﾝｾﾞﾙ (ﾄﾞｲﾂ) 在住
(17)Antonio Stradivari 1696 Cello "Lord Aylesford"	石坂団十郎	2004/1/29	ﾍﾞﾙﾘﾝ在住
(18)Antonio Stradivari 1730 Cello "Feuermann"	Steven Isserlis	1998/1/16	ﾛﾝﾄﾞﾝ在住
(短期貸与)			
(19)Guarneri del Gesu 1736 Violin "Muntz"	松本紘佳	2010/1/28	横浜在住 ｺﾝｸｰﾙ出場のため
(20) Guarneri del Gesu 1740 Violin "Ysaye"			
(その他)			
(21) Antonio Stradivari 1721 Violin "Lady Blunt"			

長期貸与18挺、短期貸与2挺、その他1挺　現在保有楽器　計21挺

別表 6



	2007年度		2008年度		2009年度	
マスタークラス	プロジェクトQ実行委員会	2,000	プロジェクトQ実行委員会	2,000	プロジェクトQ実行委員会	2,000
	ミュージック・マスターズ・コース in かずさ実行委員会	1,000	ミュージック・マスターズ・コース in かずさ実行委員会	1,000	ミュージック・マスターズ・コースジャパン実行委員会	1,000
	メックレンブルク・フォアポメルン音楽祭	2,000	カナダ国立芸術センター	1,594	カナダ国立芸術センター	895
	クールシュヴェール国際音楽アカデミー in かさま	1,500	クールシュヴェール国際音楽アカデミー in かさま	1,500	クールシュヴェール国際音楽アカデミー in かさま	1,000
	(財)関信越音楽協会	1,000	アップビート春季国際音楽セミナー実行委員会	1,000	アップビート春季国際音楽セミナー実行委員会	1,000
			21世紀の合唱を考える会合唱人集団「音楽樹」	1,000	石川県音楽文化振興事業団	1,500
			アナ・チュマチェンコ・ヴァイオリン・マスタークラス実行委員会	1,000		
指導者の育成	(社)日本アマチュアオーケストラ連盟	1,000	(社)日本アマチュアオーケストラ連盟	1,000	(社)日本アマチュアオーケストラ連盟	1,000
	日本吹奏楽指導者協会	1,000	日本吹奏楽指導者協会	1,000	日本吹奏楽指導者協会	1,000
	日本アマチュア演奏家協会	1,000	日本アマチュア演奏家協会	1,000	日本アマチュア演奏家協会	1,000
	日本弦楽指導者協会	1,000	日本弦楽指導者協会	1,000	日本弦楽指導者協会	1,000
アウトリーチ	あすなろコンサート実行委員会	1,000	あすなろコンサート実行委員会	1,000	あすなろコンサート実行委員会	1,000
	トリトン・アーツ・ネットワーク	1,000	石川県音楽文化振興事業団	2,000		
	NPO静岡交響楽団	1,000	NPO静岡交響楽団	638		
	(財)目黒区芸術文化振興財団	1,000	(財)目黒区芸術文化振興財団	1,000	(財)目黒区芸術文化振興財団	1,000
	それいけ！オルガン探検隊事務局	1,000	サントリーホールで音楽しよう事務局	1,000	それいけ！オルガン探検隊事務局	1,000
	くらしに音楽プロジェクト	1,000	くらしに音楽プロジェクト	1,000	くらしに音楽プロジェクト	1,000
リハビリ	(財)東京ミュージック・ボランティア協会	1,000	(財)東京ミュージック・ボランティア協会	1,000	(財)東京ミュージック・ボランティア協会	1,000
	町田楽友協会	1,000	町田楽友協会	1,000	町田楽友協会	1,000
パートナー	しらかわホール	1,500				
	いずみホール	2,000				
その他	自由演奏会inグランシップ実行委員会	414	蒲郡市ジュニア吹奏楽団	1,000	神奈川芸術文化財団	1,500
	NPO法人芸術振興市民の会	1,000	新学校音楽推進会	700	日本モーツァルト研究所	1,500
	日本合唱指揮者協会	500	ウェールズ弦楽四重奏団特別演奏会実行委員会	1,200	三河市民オペラ制作委員会	1,500
					ガダニーニ・コンクール実行委員会	1,000
					(社)日本オーケストラ連盟	1,500
	22件	24,914	22件	24,632	21件	24,395

1. マスタークラス

才能ある音楽家を見出し、育成していく事業で、一流の演奏技術を学ぶだけでなく、若い音楽家にとっては音楽家としての心構えや音楽に対する考え方に接する貴重な機会を提供し、今後の活動に大きな自信を与える事業。

2. 指導者の育成

講習会・研修会の指導者を育成することにより、新しい地区で分散して効率的に講習会・研修会を開催を可能にするとともに、参加者が気軽に質の高い講習を受けることを可能とする事業。

3. 子供のためのアウトリーチ

演奏会を主体とした事業だが、単に聴くだけでなく体験する音楽、音楽家とのふれあいを求めたアウトリーチ活動などを付加して、積極的にクラシックの裾野の拡大に努める事業。

4. リハビリ

障害を持つ子供やお年寄りが演奏等を行なうことによって、機能回復や障害の軽減を目指す事業

5.パートナー(事業共催者)の育成

今後、当財団主催の演奏会を東京以外の地域で積極的に開催するためのパートナーの育成を図る。今までの国内・海外での演奏会のノウハウを提供することによって協力関係を築く。助成事業ではあるが、場合によっては当財団が共催者として演奏家の招聘を行なう等の色々な協力を行なう。

6. その他

上記のとおり 2009 年度事業報告書を提出いたします。

2010 年 6 月 3 日

財団法人　日 本 音 楽 財 団

会　　長　　小　　林　　實　　㊞

理 事 長　　塩　　見　　和　　子　　㊞

2009 年度事業報告書を監査した結果、適正かつ妥当であると認めます。

2010 年 6 月 3 日

監　　事　　垣　　見　　隆　　㊞

監　　事　　山　　内　　悦　　嗣　　㊞